



JA 晴れの国岡山 農業振興計画

令和7年度 ▶ 令和9年度

JA 綱領

－わたしたちJAのめざすもの－

わたしたちJAの組合員・役職員は、協同組合運動の基本的な定義・価値・原則（自主、自立、参加、民主的運営、公正、連帯等）に基づき行動します。そして、地球的視野に立って環境変化を見通し、組織・事業・経営の革新をはかります。さらに、地域・全国・世界の協同組合の仲間と連携し、より民主的で公正な社会の実現に努めます。

このため、わたしたちは次のことを通じ、農業と地域社会に根ざした組織としての社会的役割を誠実に果たします。

わたしたちは、

- 一. 地域の農業を振興し、わが国の食と緑と水を守ろう。
- 一. 環境・文化・福祉への貢献を通じて、安心して暮らせる豊かな地域社会を築こう。
- 一. JAへの積極的な参加と連帯によって、協同の成果を実現しよう。
- 一. 自主・自立と民主的運営の基本に立ち、JAを健全に経営し信頼を高めよう。
- 一. 協同の理念を学び実践を通じて、共に生きがいを追求しよう。

経営理念

“食と農”の新たな価値を創造し、組合員・利用者・地域の皆様、
みんなの暮らしを豊かにする“愛されるJA”をめざします。



ごあいさつ

組合員の皆さまには、ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。

平素は当組合の総合事業に対しまして、格別のご高配を賜り厚くお礼申し上げます。

さて、当組合は8JA合併し6年目を迎えました。この間における一般社会・経済の動向をはじめ、農業・食料を取り巻く環境は大きく変化しています。

世界的には、地球温暖化による食料生産の不安定化や不透明な政情下における食料流通の滞り、さらには途上国を中心とする世界人口増加に伴う食料需要の増加などを背景に、「食料安全保障」という単語が一人歩きしている状況にあります。

国内農業に目を向けると、農家の高齢化に伴い基幹的農業従事者や耕作面積の減少が加速し、世界的な物価高と円安による生産資材価格の高止り、食料生産基地として農村を形成する農業は厳しい環境に直面しています。そのなかで国は、令和6年5月に改正「食料・農業・農村基本法」を成立させました。この法律改正により、新たに「食料安全保障の確保」を加え、国内農業生産の拡大を図ることを基本に農産物や農業資材の安定的な輸入を図るほか、農業法人の経営基盤の強化やスマート技術を活用した生産性の向上などに取り組むことが盛り込まれました。

このような状況をふまえ当組合は、地域農業持続の観点から農業生産の両輪である「担い手」の育成確保と「農地」の利活用、さらには「自然環境」の保全に想いを巡らせて、次期農業振興3ヵ年「晴ればれ産地」計画を策定しました。

実践活動にあたっては、組合員皆さまとの対話のもとで「農業者の所得増大」「農業生産の拡大」「地域の活性化」に向けた不断の自己改革に継続して取り組み、持続可能な多面的機能を備えた「環境調和型農業」の実現に期してまいります。組合員・関係機関の皆さまには、さらなるご支援・ご協力を賜りますようお願いいたします。ごあいさつとさせていただきます。



令和7年6月

晴れの国岡山農業協同組合
代表理事組合長 内藤敏男

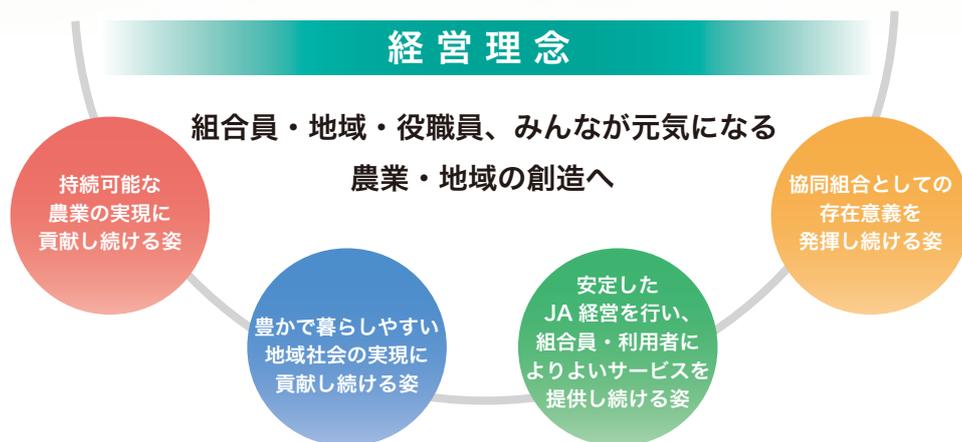
目 次

第 1 部	第 1 章 策定趣旨	1
	第 2 章 現状と課題	
	1. 現状	1
	2. 課題	3
	第 3 章 目 標	3
	第 4 章 基本方向	5
	第 5 章 戦 略	
	1. 人づくり（担い手確保）	7
	2. 物づくり（種まき）	12
	3. 販売力強化体制づくり（売り込み）	14
	4. 農業生産環境づくり（伴走支援）	16
	5. コスト低減と安定供給の仕組みづくり（農業コスト低減）	18
	6. 推進体制づくり（総合力発揮）	20
	第 6 章 部門別振興方向	
	1. 米穀部門	22
	2. 園芸部門	24
	3. 畜産部門	26
	4. 直売所部門	27
	5. 企画販売	28
第 2 部	統括本部別農業振興計画	
	岡山東統括本部	30
	岡山西統括本部	37
	倉敷かさや統括本部	44
	びほく統括本部	50
	新見統括本部	57
	真庭統括本部	63
	津山統括本部	69
	勝英統括本部	76
	用語解説	82

第1章 策定主旨

わたしたちJAは農業と地域社会に根ざした社会的役割を担う組織として、全国JA綱領に「わたしたちJAのめざすもの—スローガン—」を掲げ、自らの経営理念に「食と農」をキーワードとする「みんなの暮らしを豊かにする—愛されるJA—」を掲げて総合事業に取り組んでいます。

農業振興計画は「JA綱領」並びに「経営理念」をふまえて地域農業の「在るべき姿」を描き、その構想の下でJAが「果たすべき機能・役割」を示し、農家組合員とJA役職員が協同して「晴ればれ産地(用語解説*)」振興に取り組む指針として策定するものです。

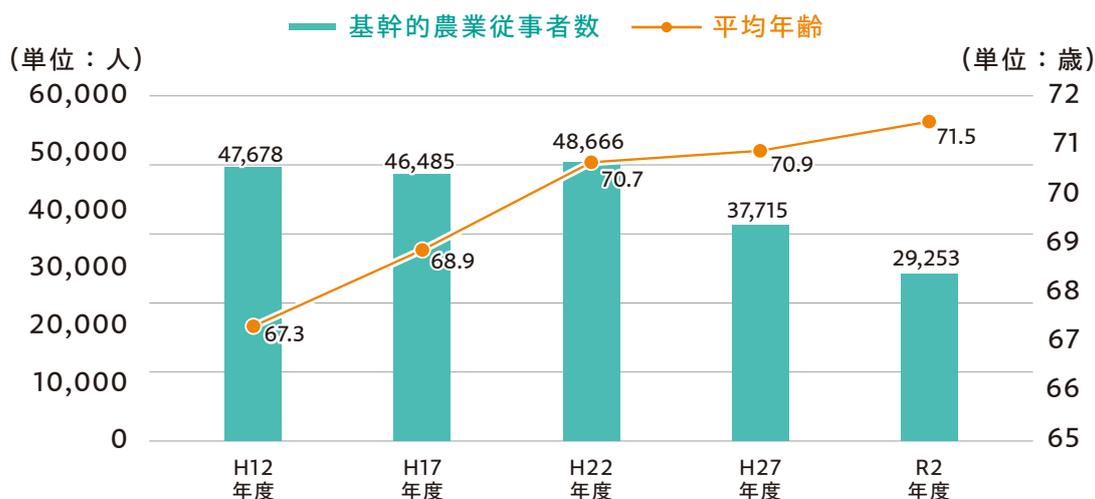


第2章 現状と課題

1. 現状

生産面

岡山県の基幹的農業従事者数及び平均年齢の推移

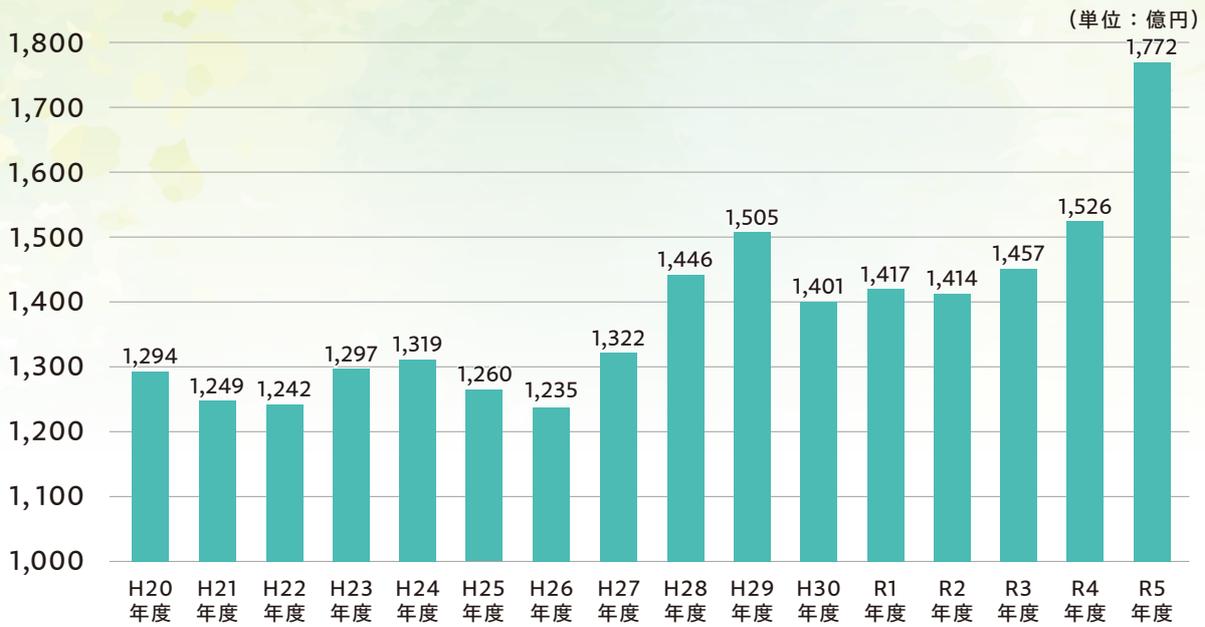


本県の基幹的農業従事者は、平成12年度の約4.8万人から令和2年度には約2.9万人と61%まで減少しています。また、平均年齢は、平成12年度の67.3歳が令和2年度には71.5歳に上昇しており、年齢構成は65歳以上が約80%を占め50歳未満は約5%に止まるなど、このままでは本県農業従事者は大幅な減少が予想されます。

ちなみに、全国平均は、65歳以上が約70%で50歳未満は約10%の水準にあります。

販売面

岡山県の農業産出額の推移

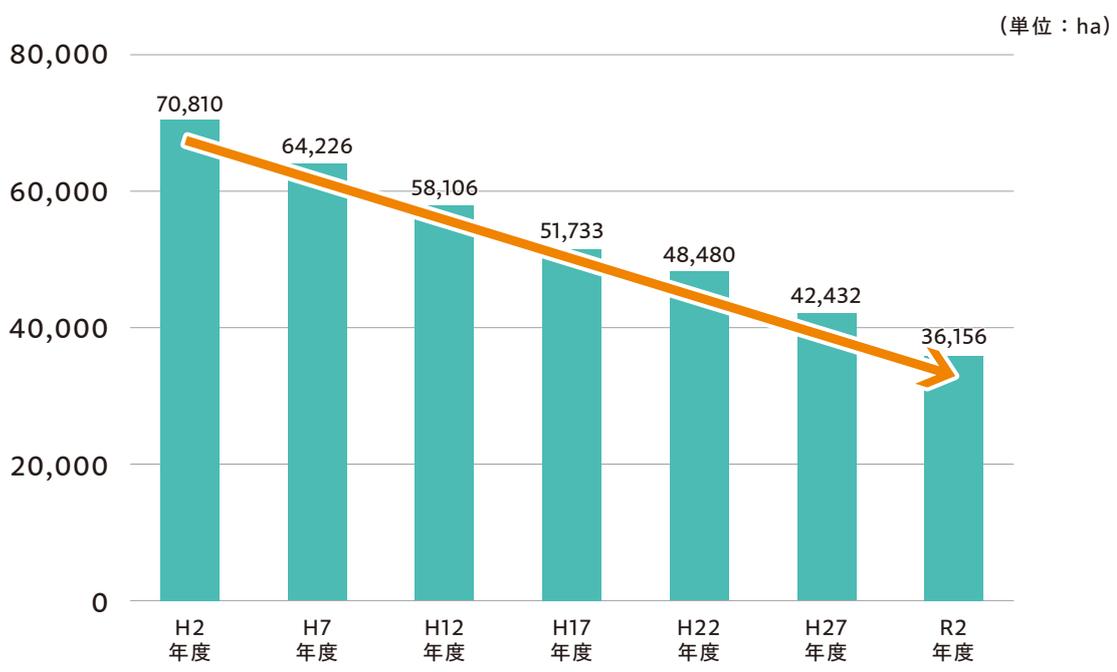


出典：生産農業所得統計

本県の農業産出額は、その基本要素「人・農地・自然環境・販売価格」等の影響の下で増加傾向を示しています。これは、農業従事者や経営耕地面積の減少と頻発する異常気象等のなか生産量は右肩下がりの状況ですが、本県の恵まれた気候風土を活かした高付加価値農畜産物の増産に伴う平均販売価格の上昇に支えられた結果といえます。

生産環境面

岡山県の経営耕地面積の推移



出典：農林業センサス

本県の農業経営耕地面積は、農業従事者の高齢化や担い手不足により過去30年間で約50%が減少、直近の5年間では15%減少しています。一方、直近5年間の規模別経営体数の動向は、5ha以下の経営体は減少しているが10ha以上を有する経営体は増加しており、規模の拡大化とそれに伴う農地集積がうかがえます。令和2年度の10ha以上の経営体数は5年前に比べて8.4ポイント上昇しています。

2. 課題

わが国の農業は、輸入農畜産物との競争に耐え得る農業経営の確立が求められているなかで、国際的に不安定な政情や経済力に起因する農畜産物価格に反映できない生産資材・飼料価格高止まりによる経営圧迫や農村の人口減少と高齢化問題など、厳しい事態に直面しています。

一方、農業・農村に対する国民意識は、世界の人口増加、食料流通の滞り、頻発激甚化する異常気象や自然災害等がもたらす食料需給のひっ迫懸念を受けて、食料自給率の向上はじめ自然環境や国土保全に果たす多面的機能への期待の高まりを見えています。

加えて、食料自給率向上のみならず安定供給できる生産体制の構築や海外市場をも視野に入れた持続する農業生産確立への課題があります。

JAは、自らの「晴ればれ産地*1」振興を柱に多面的機能を備えた「環境調和型農業(用語解説*2)」の課題を据えて、みんなに期待される活力ある地域農業を創造する司令塔として果たすべき機能・役割を発揮していきます。

第3章 目標

将来を見据えた地域農業・農村を創造する「晴ればれ産地*1」振興目標を定め、第4章「基本方向」・第5章「戦略」・第6章「部門別振興方向」・第7章「統括本部別振興方向」に示す方針に沿って、常に「適地適作」「適時適切(タイムリー)」を念頭に実践活動を展開します。

また、JAグループが推進する「環境調和型農業*2」と一体的に展開する「よりよい営農活動(用語解説*3)」実践運動に段階的に取り組み、農家組合員と共に、持続可能な農業生産確立の実現に挑みます。

●目指す「在るべき姿」

食料の生産供給基地かつ国土保全など多面的機能を有する農業・農村として在り続ける、JA晴れの国岡山産「統一ブランド」「地域ブランド」農畜産物が、みんなが「作って元気!食べて元気!」の輪を広げる姿「晴ればれ産地*1」を目指します。

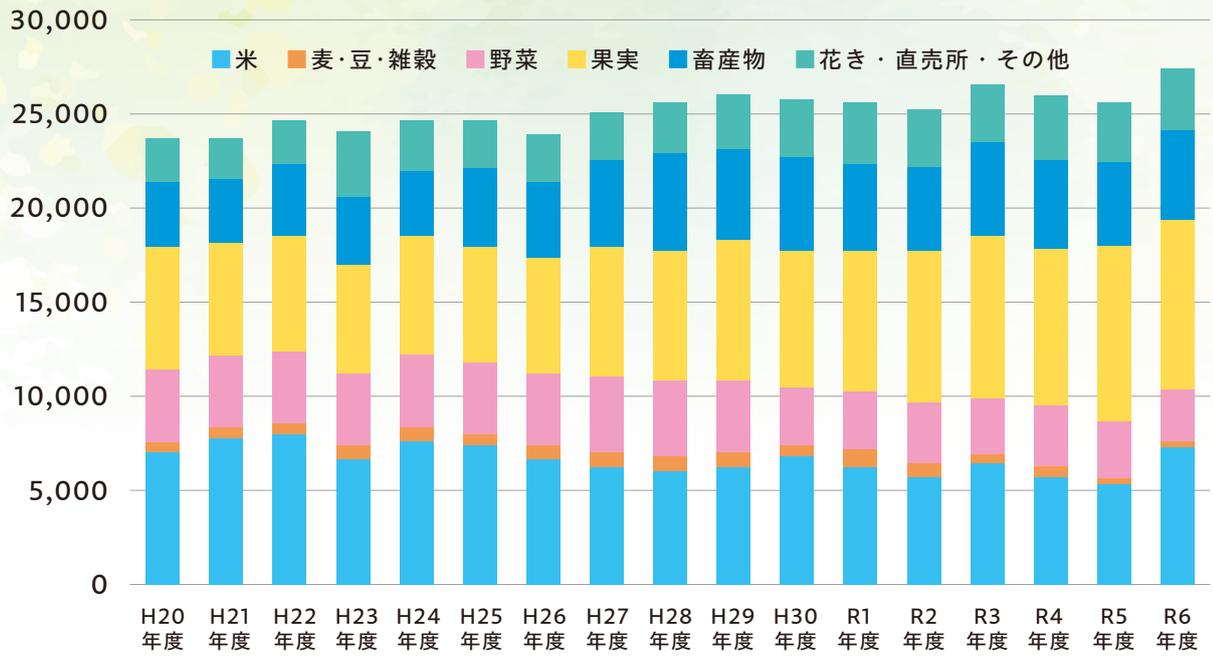
●将来目標

岡山県農業の振興に資する観点から合併当初に策定した目標を継続します。

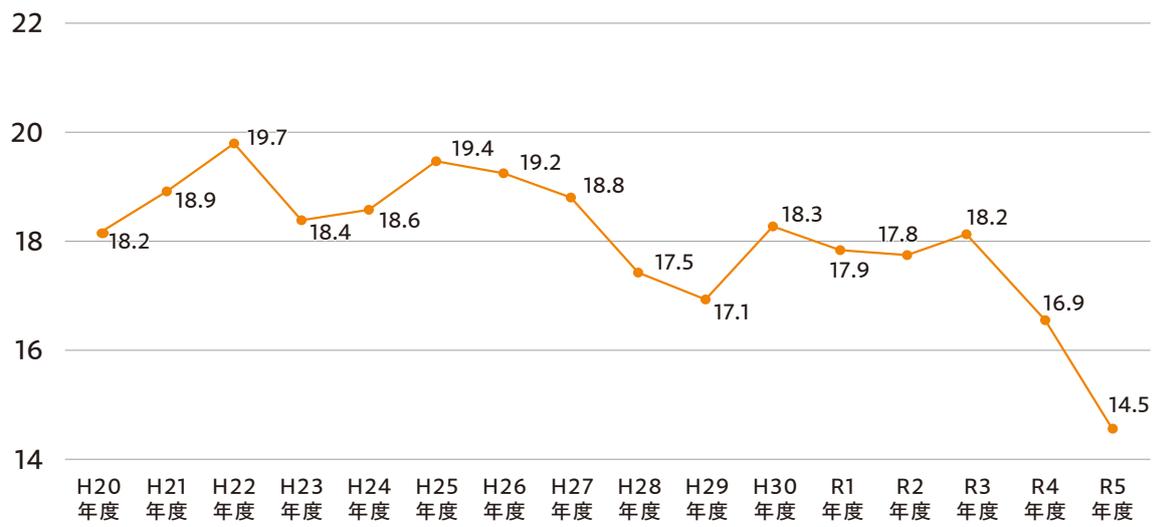


販売品取扱高の推移

(単位：百万円)



販売品取扱高の占有率 (%)



※県の農業算出額が最も大きい鶏卵が法人化による大規模化で大幅に伸長していることが、JA 販売品取扱額シェア率低下の主要因



●次期3ヵ年目標

将来目標に挑む通過点として次期3ヵ年目標数値を定め、達成を目指します。

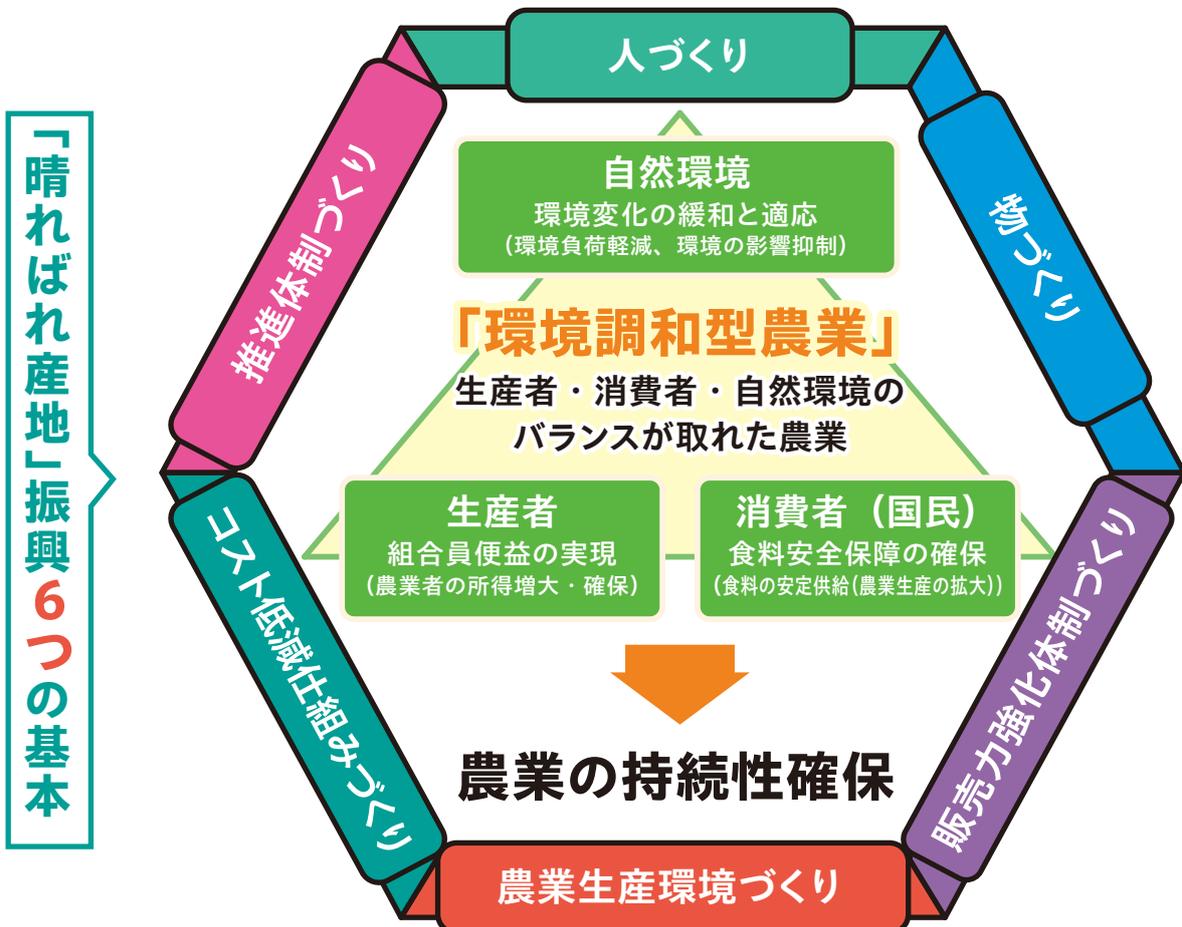
販売品取扱高の目標

(単位：千円)

品 目	実 績		目 標	
	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度
米	7,272,228	7,330,000	7,340,000	7,350,000
麦	76,496	46,000	47,000	47,000
豆・雑穀	244,530	267,000	268,000	269,000
野 菜	2,773,129	2,926,000	3,012,000	3,077,000
果 実	9,001,174	9,483,000	9,683,000	9,813,000
花き・花木	545,686	580,000	583,000	587,000
直 売 所	2,606,781	2,700,000	2,770,000	2,830,000
畜 産	4,817,709	4,868,000	4,897,000	4,927,000
そ の 他	109,646	100,000	100,000	100,000
合 計	27,447,385	28,300,000	28,700,000	29,000,000

第 4 章 基本方向

多面的機能を備えた持続する農業・農村の振興を目指す「晴ればれ産地*1」振興6つの基本課題を設定実践するとともに、「環境調和型農業*2」並びに「よりよい営農活動*3」方針の周知及び理解醸成を図り地域実態に応じた段階的施策反映に取り組みます。



●6つの基本方向

①人づくり(担い手確保)

農業の「担い手育成・確保」及びJA「指導員の育成」

②物づくり(種まき)

「統一ブランド」「地域ブランド」品目の作付け拡大

③販売力強化体制づくり(売り込み)

「ブランド向上」及び「販売チャンネル(経路)拡充」の取り組み

④農業生産環境づくり(伴走支援)

「持続可能な農業生産」及び担い手「経営サポート」への貢献

⑤コスト低減と安定供給の仕組みづくり(農業コスト低減)

「大量仕入れ」体制の整備及び「仕入チェック」機能充実

⑥推進体制づくり(総合力発揮)

内部「連動体制」並びに関係機関との「連携体制」及び「関係施策」の活用

以上6つの基本方針の下、役職員に共通するスローガンを定め、具体的に次の農業振興戦略を強力かつ着実に前にすすめて、早期実現を図ります。

スローガン

地域の農業振興なくして、JAの存在意義なし。

JAの営農指導等総合事業の発揮なくして、
地域農業の活性化なし。

JA役職員の地域農業振興への思いなくして、
「組合員・農業・地域」の元気なし。

第5章 戦略

「晴ればれ産地*1」振興6つの基本方向それぞれに「米穀」「園芸」「畜産」部門包括的全体戦略を設定し、農家組合員とJA並びに関係機関が一体となって実践活動を展開していきます。

1. 人づくり(担い手確保)

農業経営体は「主業・準主業・副業」(用語解説*4)の個人経営と「法人・法人以外」の団体経営に分類され、地域農業の担い手として個人と団体の両方で構成する生産者組織を含め、重要な位置を占めています。

近年の経営体の動向は、規模拡大は進行していますが経営体数は、団体経営は微増ながら個人経営はすべての階層で減少がすすんでいます。半面では、小規模の家庭菜園など生きがいを求める農業が増える傾向にあります。

このような状況のなかで農業の根幹をなすのは「人」であり、振興目標を達成する重要な課題として担い手の育成・確保に取り組めます。

①担い手の類型化

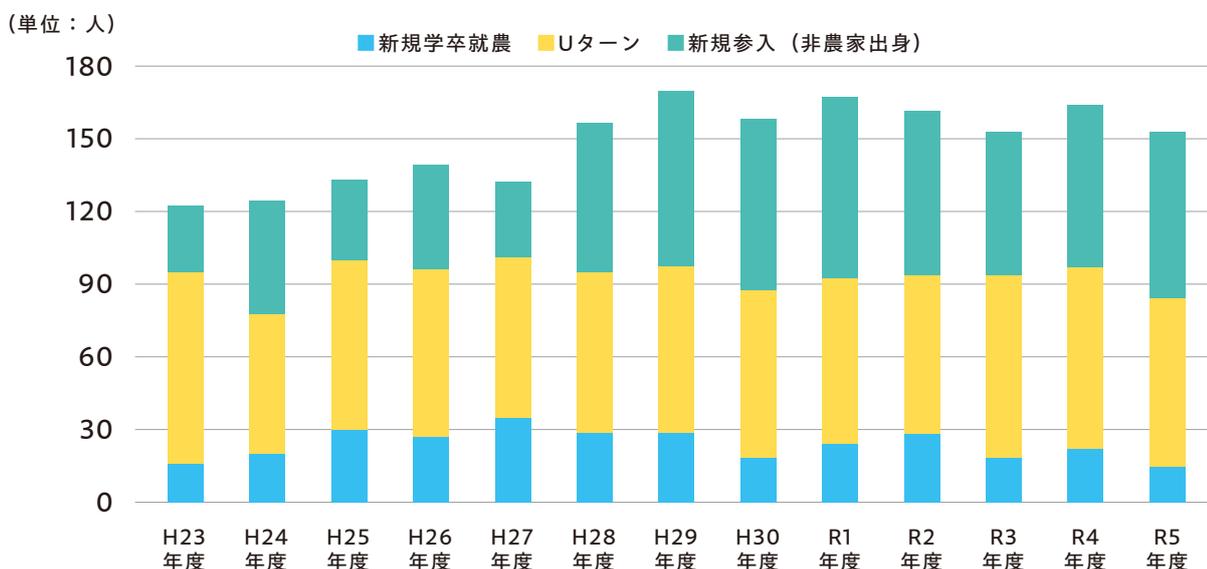
さまざまな農業形態へ円滑に対応するため、担い手を「中核的担い手」「多様な担い手」「担い手候補」に類型化します。

「中核的担い手」には、地域農業をリードする認定農業者はじめ一定の経営規模を有する個人経営や生産者組織(集落営農組織含む)及び法人等の団体経営を位置づけます。

「多様な担い手」には直売所出荷者会員や経営規模の小さい販売を目的とする組織に属さない農家、家庭菜園を生きがいとするグループ等を位置づけます。

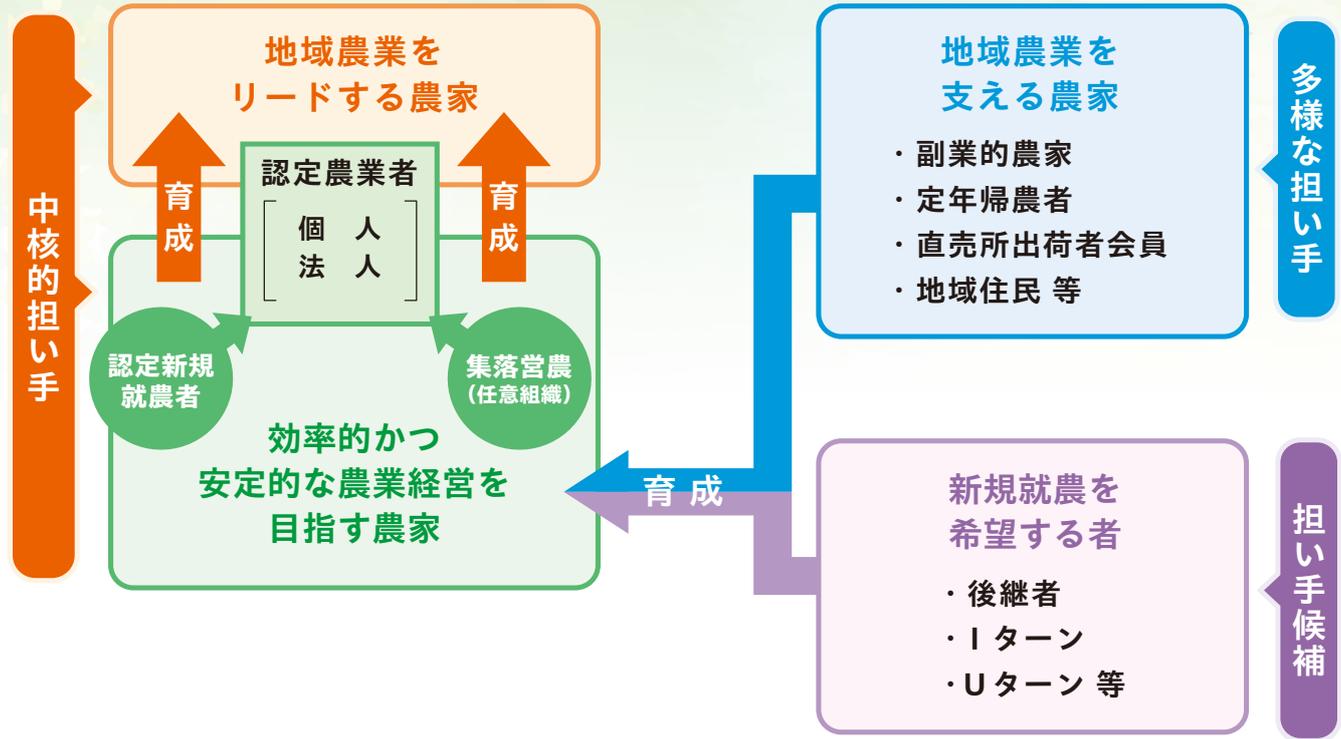
「担い手候補」には、後継者・Iターン・Uターンなど新規就農を目指す希望者を位置づけます。

岡山県の新規就農者数の推移



出典：岡山県農林水産部調べ

担い手の類型化と育成・確保



②「中核的担い手」の育成と対応

地域農業をリードする担い手には、認定農業者への誘導を推進します。また、革新技術導入はじめ経営内容の実態把握・分析に基づく粗収益増加や経費削減に関する経営指導など所得向上の総合支援に取り組みます。

認定農業者数の目標

(単位：経営体)

統括本部	実績		目標	
	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度
岡山東	207	212	217	222
岡山西	447	453	459	465
倉敷かさや	173	175	178	181
びほく	287	293	299	305
新見	168	170	172	175
真庭	180	183	185	187
津山	340	355	355	355
勝英	230	233	237	240
合計	2,032	2,074	2,102	2,130

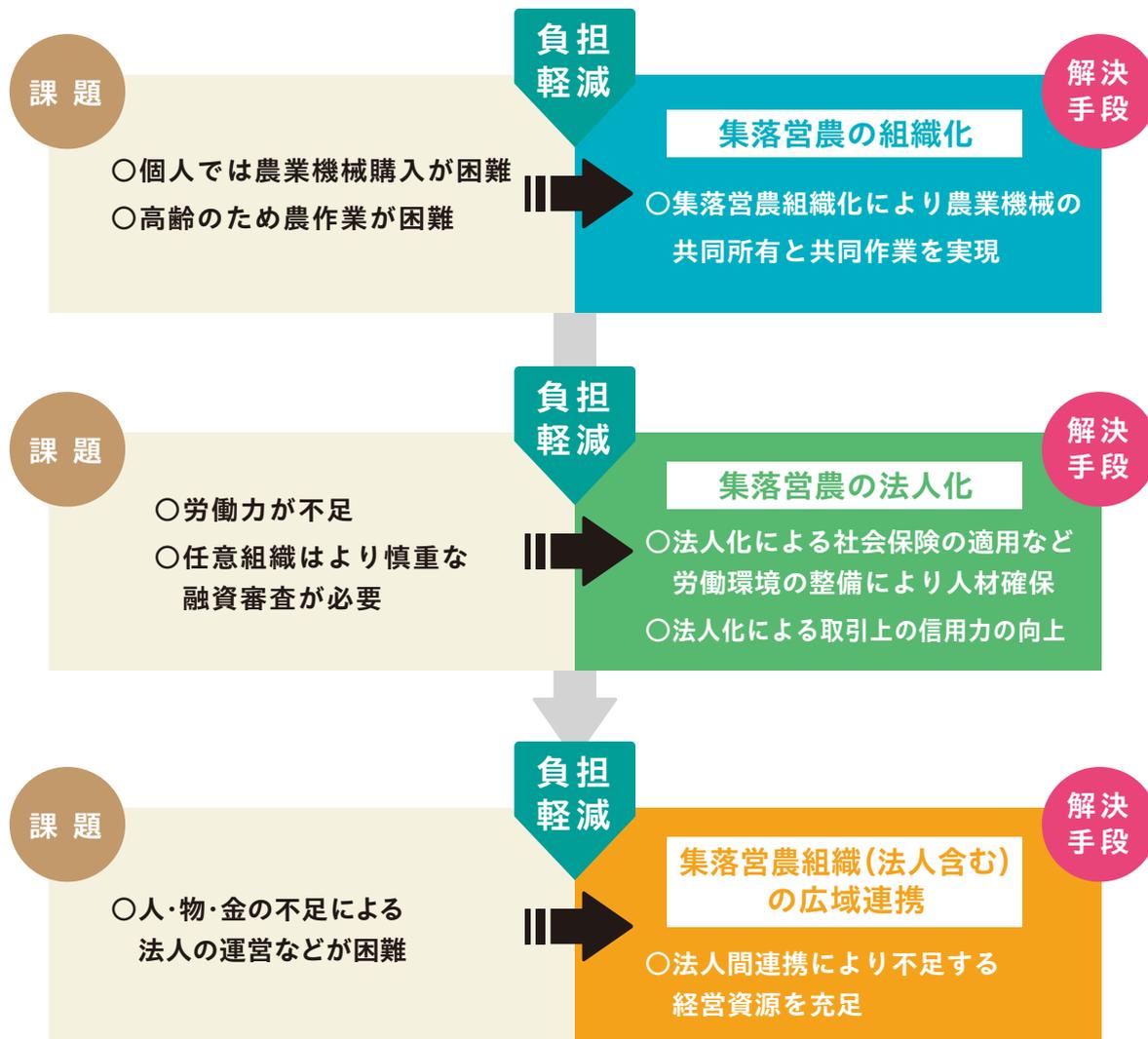
次代の農業を牽引する若き担い手の育成にあたっては、「青壮年部」「農業後継者クラブ」活動の活性化、既存経営資源の円滑な継承、持続可能な地域農業の確立に取り組むリーダーへの誘導などを目指した育成支援に努めます。

個人では維持が困難な農地の活用については「集落営農」を、法人格を持たない集落営農には法人化を、既存の法人には広域連携活動への取り組み誘導を図ります。

集落営農組織数の目標

(単位：経営体)

統括本部	実績		目標	
	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度
岡山東	18	18	18	18
岡山西	18	18	18	18
倉敷かさや	21	21	21	21
びほく	56	60	60	60
新見	29	30	30	30
真庭	43	44	45	47
津山	71	71	71	71
勝英	47	48	49	49
合計	303	310	312	314
(うち組合)	209	213	215	216
(うち法人)	94	97	97	98



③「多様な担い手」「担い手候補」の育成と対応

直売所出荷者会員にはグループ活動を通して、多品目作物の紹介をはじめ作り方や農業適正使用等に関する情報の提供・指導を行います。集団組織に属さない個人販売農家には「中核的担い手」に位置づける生産者組織加入を推進します。生きがいの家庭菜園志向者

等へはグループ化による集団対応を行い、将来の販売農家への育成及びJA総合事業利用者増大につなげます。

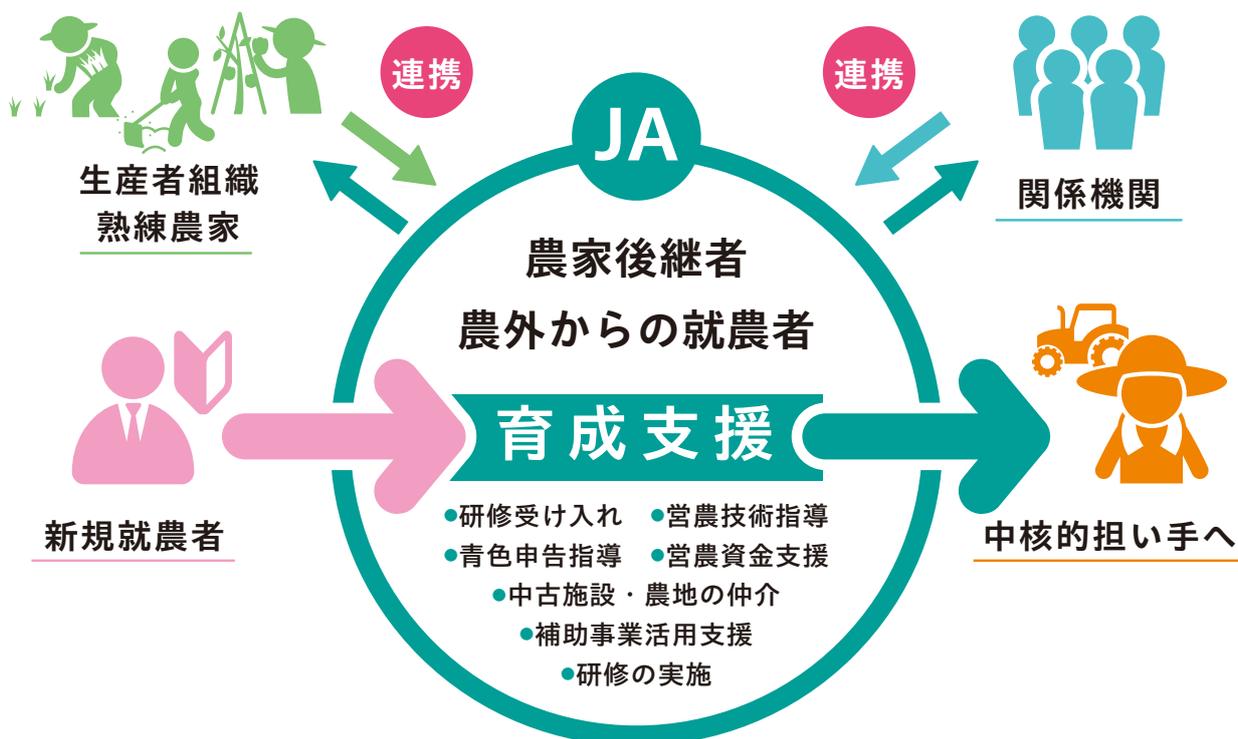
担い手候補へは、関係機関と連携する就農相談会への参加や就農促進トータルサポート事業の活用などにより、将来の「中核的担い手」を志す新たな人材発掘と新規就農者の確保・育成を支援する活動に取り組めます。



新規就農者数の目標（単年度）

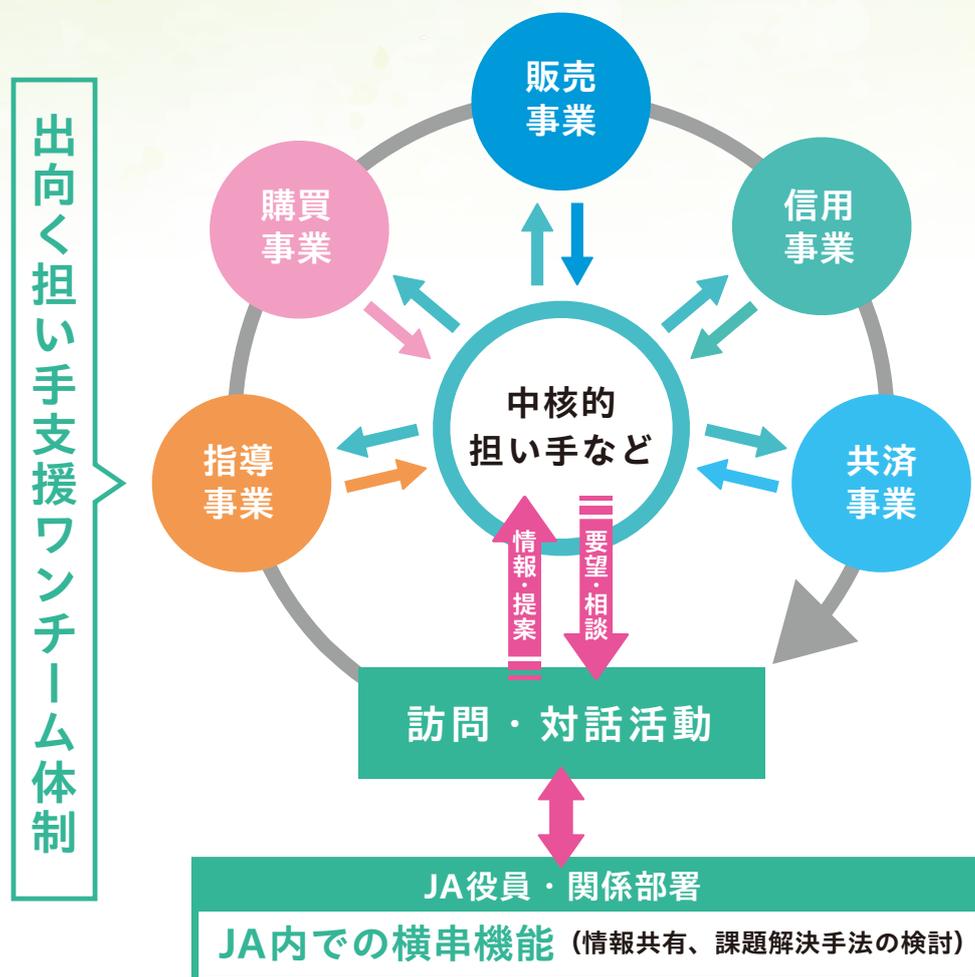
（単位：経営体）

統括本部	実績		目標	
	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度
岡山東	13	14	14	14
岡山西	27	26	26	26
倉敷かさや	5	5	5	5
びほく	8	9	9	9
新見	8	8	8	8
真庭	12	13	13	13
津山	19	13	13	13
勝英	8	12	12	12
合計	100	100	100	100



④ 出向く担い手総合支援活動

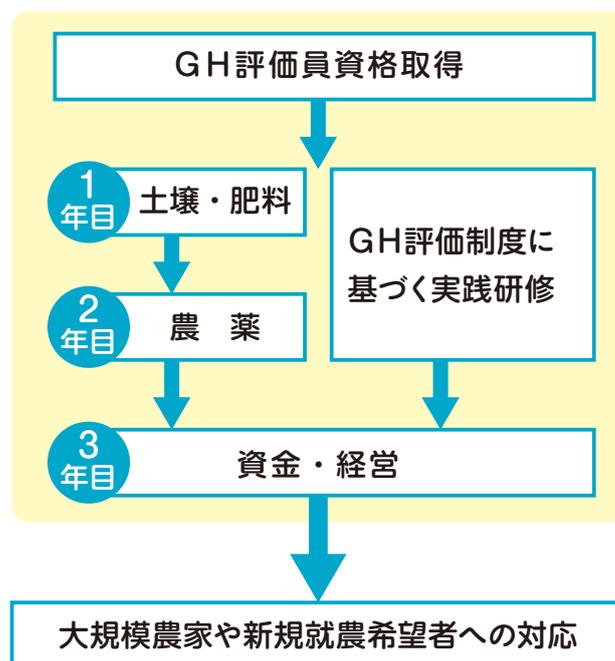
一定要件を満たす担い手登録農家へ定期的に訪問する「出向く訪問活動」体制の充実を図り、「よりよい営農活動*3」との連動による相互パートナーシップ関係の強化に取り組みます。訪問活動によって得られた担い手ニーズにはJA総合事業力を集結して対応し、農業所得向上はもとより地域農業の担い手確保や「晴ればれ産地*1」振興に結びつけます。



⑤ JA営農指導機能の強化

農家組合員のJA営農指導事業(営農企画・農業経営・営農指導)に対するニーズは高く、「よりよい営農活動*3」の期待に応える営農指導(GH評価(用語解説*5))人材を育成する研修制度「JA晴れの国岡山営農指導事業体制強化実施基本要領」に基づいて、3年間をワンサイクルとする営農指導員の育成に取り組みます。併せて営農指導機能を発揮する体制の整備拡充を図ります。

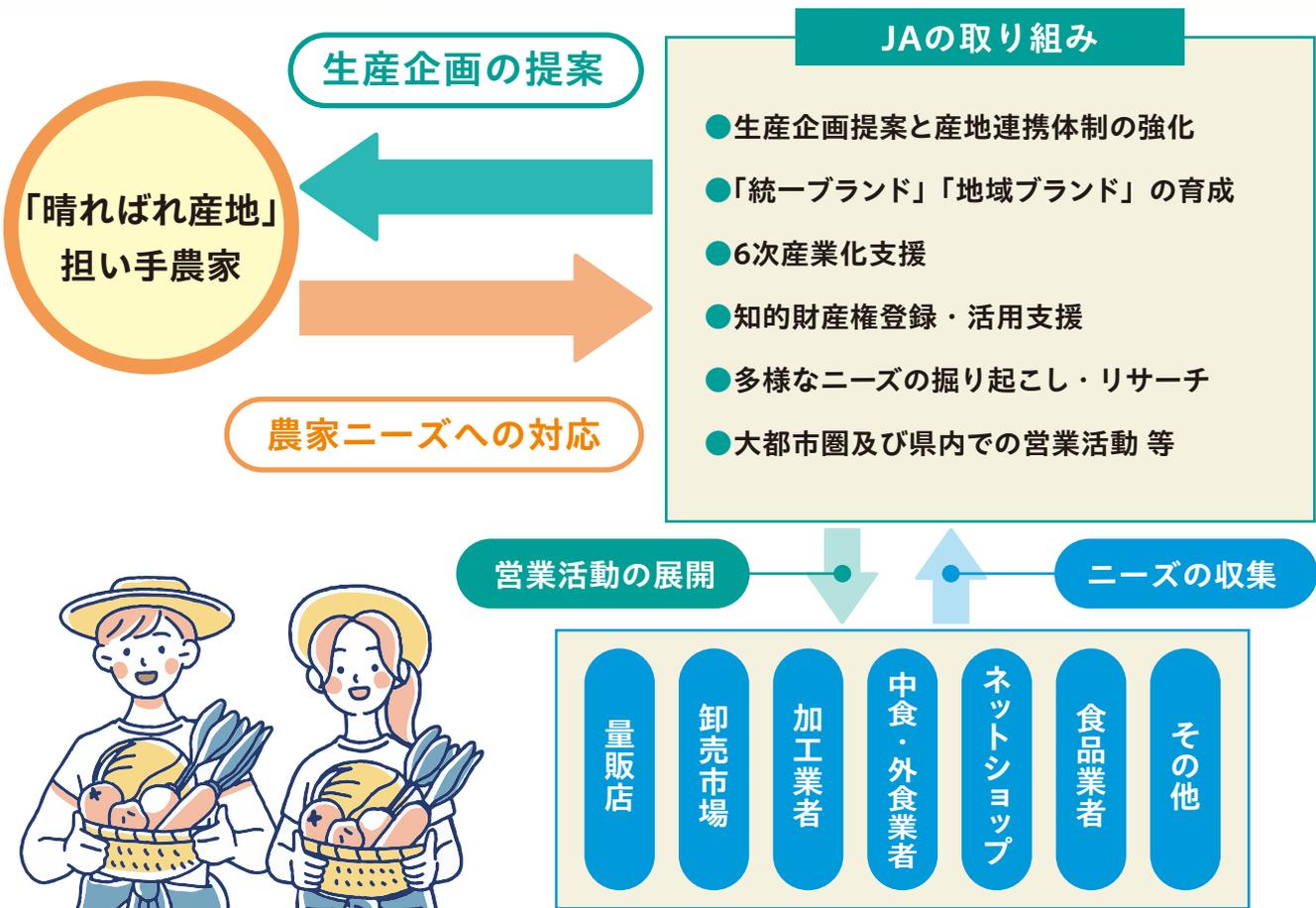
また、若手営農指導員やJA内外から登用の専門的知識を有するOB職の適正配置に努めます。



2. 物づくり(種まき)

耕種農家の生産基盤である耕作面積は中～小規模農家を中心として総体に減少傾向が続
き、品目別では、米の減少幅は大きく園芸は微減の状況にあります。畜産農家の生産基盤であ
る飼養頭羽数は増加しており、個人から法人経営への寡占化の進行に起因しています。これら
の動向を背景に、耕種農家・畜産農家共に一経営体当たり平均規模(耕作面積・飼養頭羽数)
は拡大する傾向にあります。

農家の少数化・大規模化がすすむ状況をふまえ、適地適作を観点に需要の変化に応じた選
択的規模拡大の推進による農業所得確保に取り組みます。また、小規模農家へは「共同の力」
を発揮する生産者組織への加入を推進します。



①産地拡大

生産者組織を中心とする「生産団地の造成」「生産基盤の強化」など行政支援を視野に入れて、面的かつ集団的な生産振興及び「よりよい営農活動*3」に取り組みます。また、生産者組織未加入者には加入を促進し、地域農家がこぞって「晴ればれ産地*1」振興に取り組む連携体制の充実を図ります。



②品目振興

県の振興方針をふまえて、品目ごとの特性を活かした「統一ブランド」を定め、全域にわたる生産振興を図ります。

地域固有の立地や風土を活かすオリジナル品目については「地域ブランド」として、地域ごとにブロック振興を図ります。

③農地保全の取り組み

JAは耕作放棄地の拡大を防ぐ観点から、農作業受委託事業に取り組みます。JAが農作業を直接行う方法とJAが受託しパートナーに再委託する手法によります。

また、離農に伴う農地や園地の利活用及び流動化に対しては、認定農業者や集落営農組織、農業法人、農業後継者等を受け皿とした農地の集積と集約化に取り組み、個々の経営規模拡大とともに地域全体の農地保全・管理につなげます。

④6次産業化支援

地域に埋もれた加工技術や資源を活かし継承する6次産業の取り組みを支援します。また、「付加価値の増大」と「新規需要の拡大」を念頭に新たな6次化商品を開発するなど総合的に、農業所得の向上と持続する農業の実践や生産拡大へと結びつけます。

⑤知的財産権の活用

地域の文化、歴史や風土、特性、独自性が認められる「地域団体商標制度」はじめ「地理的表示(GI)保護制度」や「JA登録商標」等、知的財産権を保護する制度をフル活用します。知的財産権を取得した品目については、「物語」を付加したブランド品の増産に取り組むとともに消費宣伝(PR)活動やオリジナル販売を展開します。

⑥ 種苗の供給

農産物づくりに必要な種苗確保について営農・経済部門連携して、ニーズに応じた柔軟な対策を講じます。購入種苗注文者には予約制度の下での確な対応を図ります。農家自らの育苗には、健苗育成や生産性向上等の指導対応を行います。育苗施設利用者には、施設の広域的活用かつ汎用的協力関係の再構築をはじめ、少量品目・品種の集中育苗や育苗作業の効率化、育苗ロスの減少、料金統一等、運用改善を図り対応します。

3. 販売力強化体制づくり(売り込み)

農畜産物販売は農業所得に直結する事業であり、その中核を担う「共同販売」の強みを活かしたスケールメリットの発揮が所得確保の重要な鍵を握ります。

その実現に向けて、取引先と産地間における食の安全・安心を基調とするブランド力を活かした信頼関係の構築はじめ、双方のニーズに裏づけられる消費宣伝(PR)活動や販売チャネルの充実による有利販売及び安定運送手段の確保などに取り組みます。

また、JA独自販売を指向するPJ(プロジェクト)検証に取り組みます。

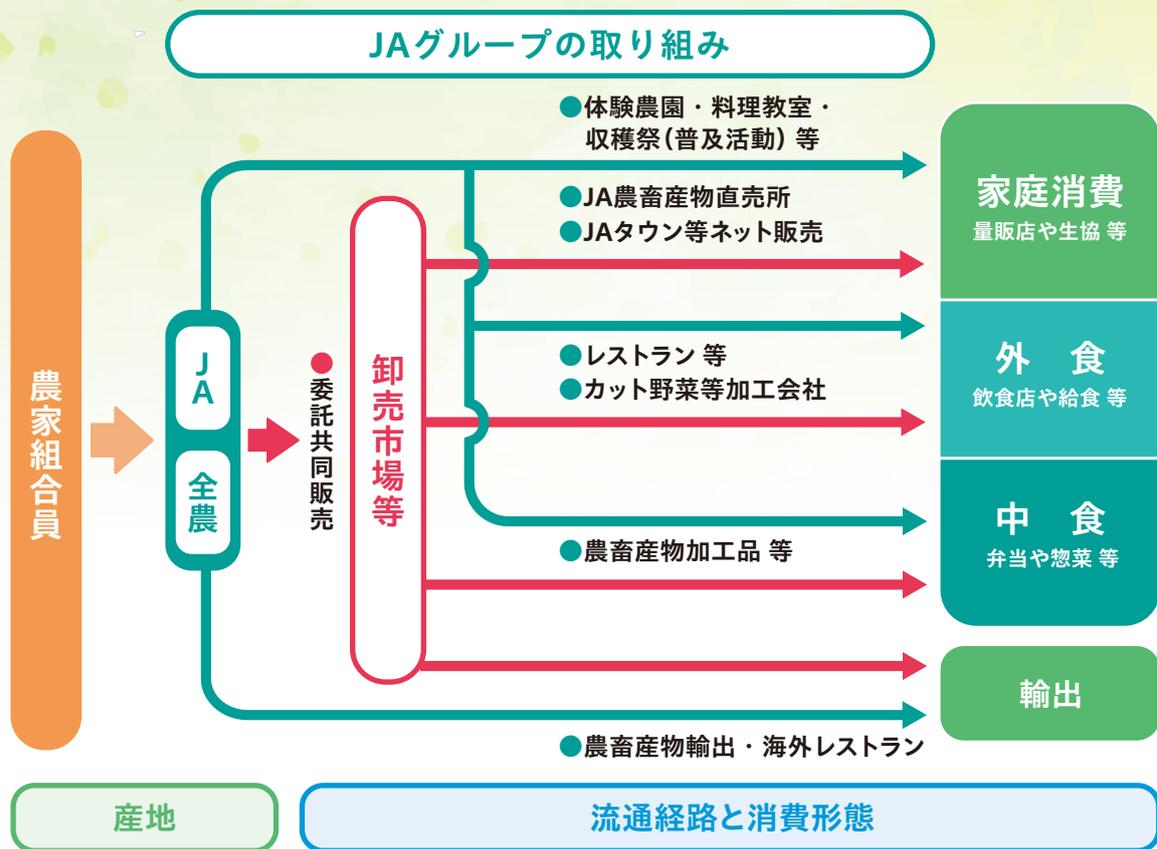
① 販売先のパートナー化

青果、米穀、畜産など異なる流通状況のなかで品目それぞれに、実需ニーズに基づく仕向け先の集約化と重点販売先とのパートナー化に取り組みます。そして、実需と産地間双方の現場における有益な交流機会や日常的確かつタイムリーな情報交換などを図り、相互の信頼関係強化による販売力強化を目指します。

② 販売チャネル(経路)の充実

農畜産物の需要は家計用・加工用・業務用に大別され、国民のライフスタイルの変化に伴って外食化・中食化や簡便化・即食化をはじめ生鮮食品から加工食品へのシフトなど多岐多様化するニーズはもとより食の国際化の進展などの動向を的確につかみ、販売チャネルの充実に取り組みます。また、取引形態(時期・量・質)を柔軟に受け入れることのできる産地体質・体制の強化を図ります。





JA農畜産物の販売チャネル(経路)

③ JA独自販売検証(プロジェクト)

当面の販売事業方式は継続するものの販売チャネルの充実と並行して、JA独自販売の機能・有利性を検証するプロジェクトに取り組み、有益かつ可能な品目や取引形態から随時、独自販売を強化していきます。

④ ブランド力向上

全域統一品目は、連携販売を視野とする「JA晴れの国岡山」を前面に打ち出した「定期・定量・定質」需要に応えるブランド産地化に取り組みます。かつ、統一品目に地域色を加味した方がより有益な品目については、ブランドの重層化に取り組みます。

地域オリジナル品目については、将来の広域化を視野としたブランド化に取り組みます。

⑤ 売り込み(消費宣伝)活動

関係機関と連携した「消費地まで出向く活動」「試食宣伝」「TVなどマスコミ媒体の活用」「宣伝グッズ作成・配布」等々、品目それぞれの特長を活かした売り込み(消費宣伝)活動を展開します。

また、農畜産物品目と独自の地元加工品や商店とコラボ(協力)する6次化商品あるいはJA晴ればれ直行便や直売所の企画品目などをリンク(連動)させた消費宣伝(PR)活動に取り組みます。

⑥ 運送手段の確保

産地間連携・統合による集荷及び出荷拠点の集約化や地域内で作付けされる多品目作物の集約など運送ロットを増やす産地協議・調整に取り組み、運送手段の確保と運賃の最適化実現を追求します。

また、産地買取り販売による運送手段の確保と運賃を削減する実需開拓に取り組みます。

4. 農業生産環境づくり(伴走支援)

地域農業の持続には、担い手農家が農業を営みやすい環境づくりが必須なことからソフト面における課題を6つに整理し、「よりよい営農活動^{*3}」の支援に取り組みます。

① 営農及び経営改善サポート

持続する農業を展望したスマート農業(用語解説^{*6})などの革新技术対応をはじめ、気象変動の深刻化が予測されているなか温暖化に適応する品種・系統や環境負荷を低減する開発技術・機器などの導入普及を支援します。その一つとして、「Z-GIS(用語解説^{*7})」「ザルビオ(用語解説^{*8})」を活用する効率的な営農・栽培管理システムの普及支援に取り組みます。

経営面では「JA晴れの国岡山農業青色申告会連絡協議会」運営体制の強化やソリマチ農業簿記活用の推進並びに専任担当者の育成に取り組み、担い手農家の経営改善や経営資源の有効活用をサポートする機能発揮に努めます。

② 地域農業活性化サポート

高齢化に伴う遊休農地が増加する状況のなか、関係機関との連携を図り、農地の貸し手と借り手のマッチング促進による認定農業者・農業法人など農業の担い手への農地集積の円滑な取り組みによる地域農業の活性化を支援します。

また、JA農作業受委託事業の充実並びに新たな働き手を確保するツール(手段・方法)として農福連携の促進や農家と働き手を結ぶ「1日農業バイト」アプリ(用語解説^{*9})の紹介など、持続する地域農業の活力向上支援に努めます。

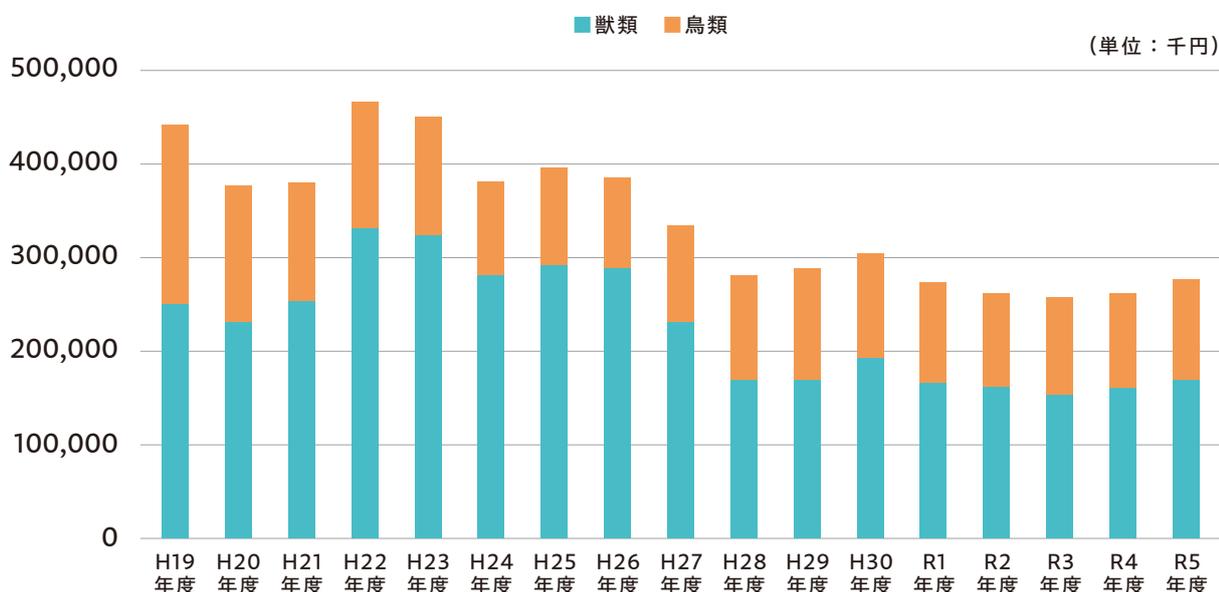


③ 各種資格取得対応

大規模経営に不可欠な機械化に伴う大型特殊免許や農業被害が深刻な鳥獣の狩猟免許・許認可などの取得について、タイムリーな情報提供に努めます。加えて、鳥獣被害防止については関係機関・猟友会との連携により、有益な駆除知識の普及活動や集落全体の「集落柵」整備への意識啓発に取り組みます。

また、消費者と食の信頼を高める取り組みとして、GAP(ギャップ)や HACCP(ハサップ)などの認証取得や実践活動をサポートします。

岡山県の鳥獣による農林水産被害額の推移



出典：岡山県農林水産部 調べ

4 労働・自然等災害対応

農作業時における労働災害に備える本店設置の「労働保険事務組合・特定加入団体」の農家組合員への周知及び理解浸透を図り、各統括本部を窓口にも農家組合員への円滑な「農業労災保険」加入促進と未利用地域への適用拡大を推進します。加えて、労働災害リスクへの補償で法人等の農業経営をサポートする JA 共済労働災害補償制度（用語解説*10）や幅広く農業経営リスクへ対応する農業者賠償責任共済（用語解説*11）への加入を推進します。



また、自然災害による収量減少や価格低下など経営努力では避けられない不慮の災害リスクによる収入減少に備え、収入保険や農業共済制度などへの加入を促進します。

5 食の安全及び SDGs への取り組み

「よりよい営農活動*3」に根ざした売れる産品づくりを目指し、「作業防除暦」の作成配布と生産履歴記帳（トレーサビリティ）による農薬適正使用や動物用医薬品等の適正使用の推進並びに指導を行います。

SDGs（持続可能な開発目標）対応については、JA グループ岡山の「SDGs 取組宣言」の下、次の取り組みを通して地域社会の課題解決支援に貢献します。

「持続可能な食料の生産と農業の振興」

「持続可能な食料供給」

「農業生産における環境負荷の軽減」

「農業の持つ多面的機能の発揮」

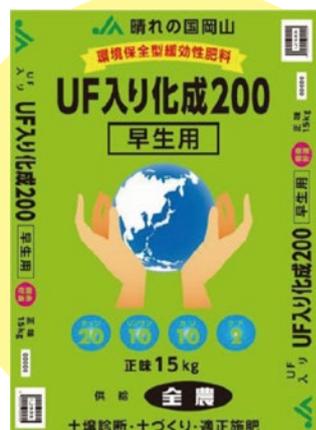
「安心して暮らせる豊かな地域社会」

「多様な関係者・仲間との連携・参画」

6 環境調和型農業*2 の推進

持続可能な食料・農業基盤の確立を目指し、基本となる「自然環境への負荷の緩和と適応を図る農業」の農家組合員への理解醸成及び地域実態に応じた段階的取り組みを推進します。

推進課題は、JA グループ全国共通の「化学肥料削減」「化学農薬削減」「温室効果ガス削減」「プラスチック削減」「堆肥活用」などとなります。



5. コスト低減と安定供給の仕組みづくり(農業コスト低減)

今日までの JA 自己改革を継続し、農業関連資機材供給のスケールメリットをさらに生みだす共同体制の追求により、安全で良質かつ低価格な資機材の安定供給に取り組み、農業コスト低減及び農家組合員の利便性向上などによる「よりよい営農活動*3」支援を目指します。

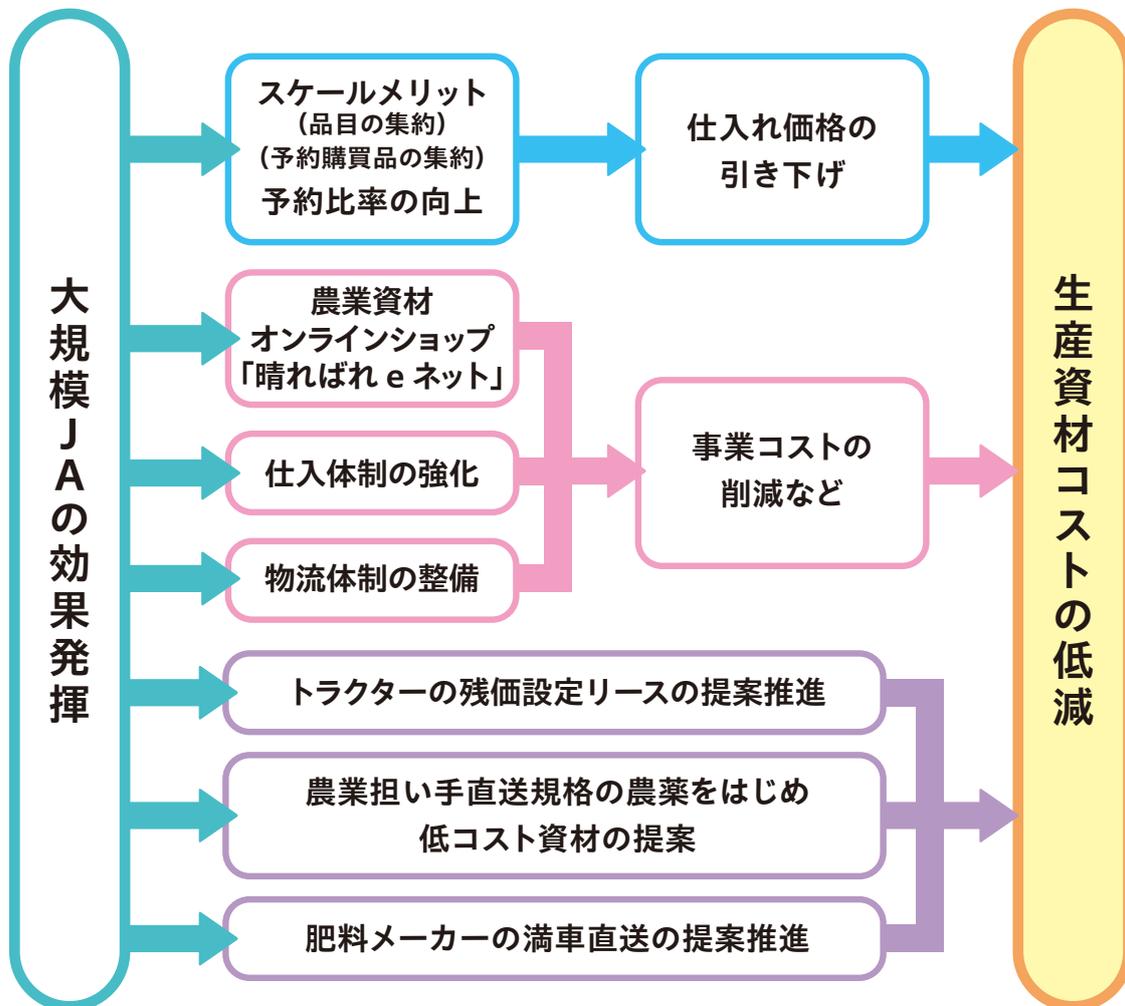
①生産者組織体制の強化

有利販売と連動した産地連携や生産者組織再編の強化などに取り組み、必要資機材の導入・仕入に関するスケールメリットを生みだす体制を整備します。同時に、広域化による効率的な運送や関係機関の補助及び支援施策などの利活用がより多くの農家に受け入れられる体制を整え、農業コスト低減につなげます。

畜産飼料については輸入依存からの脱却による、自給率向上を目指します。

②生産出荷、包装資材対応

生産出荷マニュアル(栽培暦・出荷規格等)の広域化と資材統一による仕入ロットの増大及び効率化に取り組むとともに、大規模担い手農家への大型規格農薬や肥料満車直送などの企画及び利用推進により、農業資材コスト低減を図ります。



③ハード施設、機械対応

経営規模の拡大や農作業の能率化・効率化について、スマート農業*6 進展の動向や担い手農家への導入適性など農業生産コスト低減の観点から情報収集や検討に取り組み、的確

な対応に努めます。

ライスセンターはじめ集出荷選果場や米倉庫など共同利用施設については、耐用年数・広域利用の可否などについて検討を行い、集約化や利用率向上(複合化)による農業施設運営コスト低減を図るとともに担当者育成に取り組みます。

④仕入機能の充実

スケールメリットを活かした一括大量仕入体制の整備を図るとともに、肥料・農薬・飼料・燃油など適切な生産出荷資材の仕入及び仕入チェックにかかる営農・経済部門の連携機能を強化します。また、物流と保管管理体制の見直しによる、農業資材コスト低減に取り組みます。

一方、R6年産水稻予約肥料農薬の注文から導入した「晴ればれeネット」が、農家組合員の利便性と農業資材コスト低減に資する購買受注システムとして支持され定着するオンラインショップとしての機能や仕組みなどの改善に取り組みます。

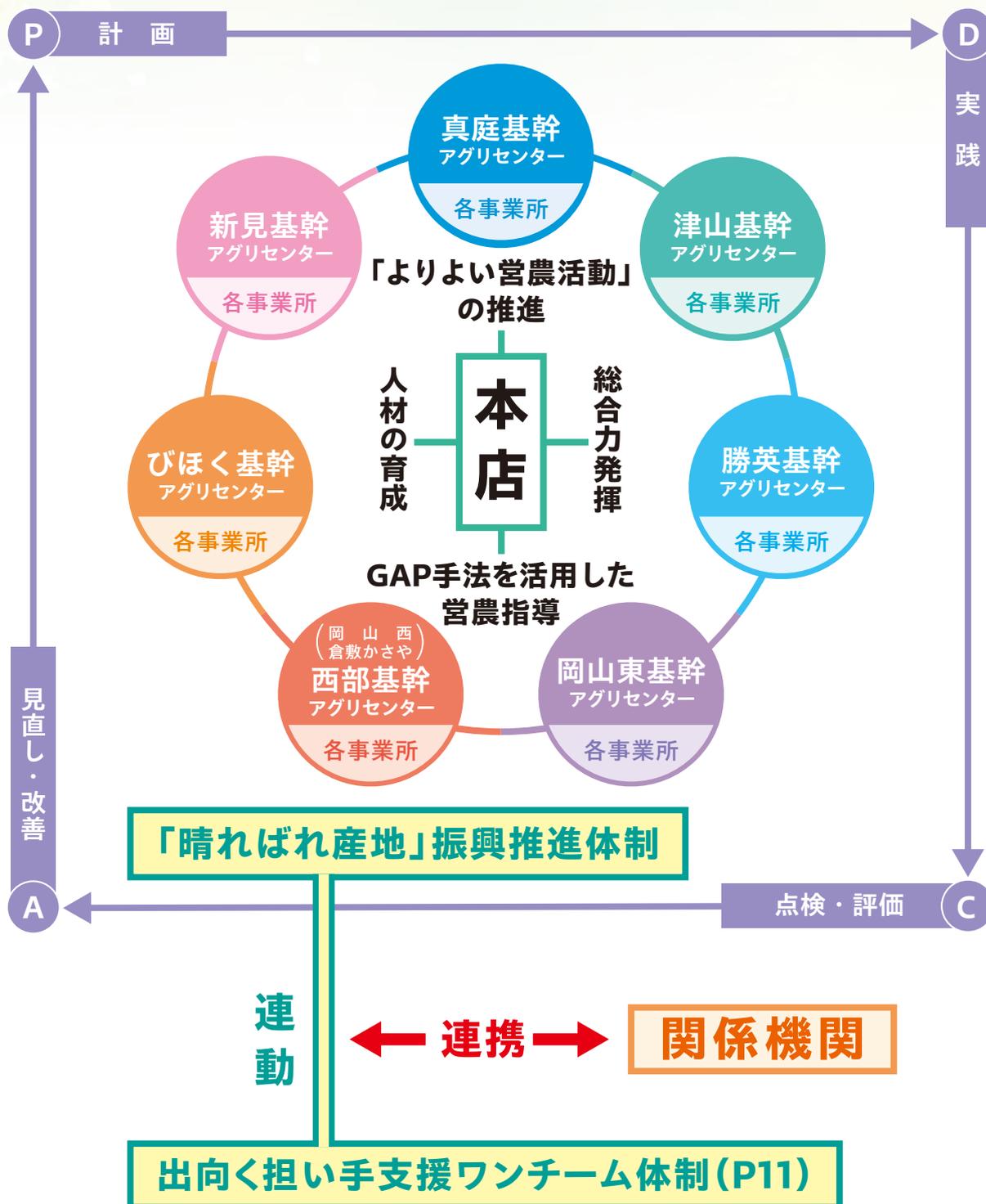
⑤土壌診断と施肥改善

基幹アグリセンター管内へ配置の土壌診断簡易分析装置などの農家組合員への周知と積極的な利用を推進します。診断結果は、自らの肥培管理や地域の施肥設計改善に活用し、有機物の有益な利用と健全で気象変動に強い農作物の生育促進を図り、病虫害リスクの低減や過剰施肥回避による農業生産コスト低減につなげます。



6. 推進体制づくり(総合力発揮)

農家組合員の「よりよい営農活動^{*3}」に取り組む推進体制を整え、農家を訪問する「出向く担い手支援ワンチーム体制」との内部連動並びに関係機関との連携を図り、担い手農家ニーズはもとより関係者総意に基づく関連施策や制度の活用など、総合力発揮による「晴ればれ産地^{*1}」振興に取り組みます。



① 総合支援(連動・連携)体制の強化

JAの総合力を集めたJA内部での合同会議等により、産地の「生産基盤強化対策」「販売力強化対策」「組織対策」などの課題について、PDCAサイクルに則り協議支援する連動・連携体制を整えます。また、「晴ればれ産地*」振興にかかる重要課題については、生産者組織等との意見交換を通して農家組合員の意思反映を図り、関係機関とも連携して「よりよい営農活動*3」に結びつける新たな体制の整備を検討します。

② 補助活用

産地の生産出荷に関する近代化や基盤強化等への投資ニーズには、採択要件に適合する事業の洗い出しなど関係機関と連携協議する体制を整え、円滑な補助事業導入の対応を行います。また、担い手個々への直下型補助金交付事業にあつては、伴走支援団体としての役割発揮に取り組みます。

③ 制度対応

官民それぞれが定め取り組む各種の農業関連制度について、関係機関と連携して、関係農家・集団等への的確な普及啓発と実践活動の支援に努めます。

- ・適格請求書等保存方式(インボイス制度)
- ・JAS法の下、有機食品の生産と表示に統一の基準を定めた制度(有機JAS認証)
- ・日本GAP規範に基づく農場評価制度(GH;グリーンハーベスター*5)
- ・行政の各種交付金制度など
- ・既に文中説明の制度

地域団体商標制度(P13)、地理的表示(GI)保護制度(P13)、JA登録商標(P13)
GAP;ギャップ(P16)、HACCP;ハサップ(P16)

④ 制度資金対応

農業関連資金については信用部門と営農・経済部門が連携して、地域農業の担い手及び集落営農組織などへのコンサル機能を採り入れた訪問活動を通じて、必要とする資金の適切な対応に努めます。



第6章 部門別振興方向

本章では、中国山脈から瀬戸内海にわたる変化に富む自然環境を活かした「米穀」「園芸」「畜産」部門が織りなす多様な農業について、その部門ごとの振興方針及びそれぞれの地域に根付く直売所、さらには契約やネット販売など企画販売の取り組み方向を示します。

1. 米穀部門

水田を取り巻く状況は、国内人口の減少や食の多様化に伴う米消費量の減少は続き、生産面では農家の高齢化や自然災害の頻発など環境変化が進行しています。これら現状分析と今日までの取り組み総括をふまえ再生産につながる経営確立を視点に、需要に応じた水田活用、多面的機能を有する水田活用、スマート農業*6に対応した水田活用など適時適切(タイムリー)な水田フル活用を推進し、農業所得向上と担い手確保に取り組みます。

①米の振興

主食用米については、広域に広がる水田を有する当組合管内では各地域の気候風土を活かして多くの品種が栽培されています。全国的には中～小規模県の位置づけのなかで、マーケットイン(ニーズ優先)の視点から品種集約による供給力強化に取り組みます。集約の方向は、奨励する6品種「コシヒカリ」「あきたこまち」「きぬむすめ」「ヒノヒカリ」「朝日」「アケボノ」に高温耐性のある「にこまる」「にじのきらめき」を加えた8品種を重点振興品種に設定し、他品種からの転換による作付け拡大を推進します。また、JAグループ岡山として取り組むSDGs(持続可能な開発目標)における地域循環環境保全型事業「里海米」のさらなる生産拡大を図り、環境保全活動の発揮に努めます。一方では、需要に応じた酒造好適米にも取り組みます。同時に、適地適作を基本に品種特性を活かした岡山米の品質向上やその特長を消費者へ啓発する消費宣伝(PR)によるブランド化を推進します。

非主食用米(飼料用米、米粉用米、加工用米、WCS(発酵粗飼料)用米等)については麦・大豆を含め、水田活用の直接支払交付金対象とした作付けの推進を、水田フル活用にあたっては地域振興作物や高収益園芸作物を加えた作付け推進を図ります。

水田農業を支える担い手育成については、大規模経営体・集落営農組織等への農地集積による規模拡大や法人化とともに省力・低コスト体系の見直しや機械施設の有効利用、スマート農業*6導入などの観点から収益性の高い経営体への誘導を図ります。



米集荷数の目標

(単位：俵)

品 種 ・ 銘 柄		実 績			
		令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度
主食用米	コシヒカリ	86,537.5	101,110.0	100,170.0	98,230.0
	あきたこまち	59,680.0	64,500.0	63,100.0	61,700.0
	きぬむすめ	79,845.0	94,350.0	93,980.0	93,720.0
	ヒノヒカリ	15,193.5	17,000.0	16,630.0	16,520.0
	朝 日	17,988.5	19,590.0	19,500.0	19,500.0
	アケボノ	14,232.0	16,670.0	16,725.0	16,780.0
	にこまる	10,954.0	13,860.0	13,925.0	14,080.0
	にじのきらめき	10,003.0	31,820.0	38,270.0	45,530.0
	もち米	8,618.0	8,828.0	9,030.0	9,130.0
	酒造好適米	21,693.5	20,135.0	20,140.0	20,145.0
	その他主食用米	9,773.5	10,080.0	9,780.0	9,570.0
水田活用米穀		48,448.7	18,612.0	16,925.0	15,325.0
合 計		382,967.2	416,555.0	418,175.0	420,230.0
(うち里海米)		29,666.5	32,650.0	34,450.0	36,250.0

※水田活用米穀とは「飼料用米」「米粉用米」「加工用米」「新市場開拓用米」を指す。

②麦・大豆振興

土地利用型かつ水田農業の経営安定に重要な作物として、経営所得安定対策を活用した作付けを推進するとともに、連坦化・団地化やスマート農業*6 導入などの取り組みによる生産性向上を推進します。

麦については、大麦・小麦・裸麦それぞれに実需の要望に応じた品種の作付けを推進します。なかでも小麦は、実需の求める品質確保が必須であることから、品質向上の取り組みを継続します。

白大豆は、経営所得安定対策を活用する水田フル活用品目として、需給に応じた作付け推進を図り、黒大豆は県北東部を中心に栽培される全国有数の産地であることから、外延的拡大を含めさらなる作付け拡大を推進します。

麦・大豆集荷数の目標

(単位：t)

品 目		実 績			
		令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度
麦	大 麦	505.6	423.0	433.0	433.0
	小 麦	538.3	438.0	443.0	443.0
	裸 麦	16.5	14.0	14.0	14.0
	合 計	1,060.4	875.0	890.0	890.0
大 豆	白 大 豆	71.4	79.2	79.4	79.4
	黒 大 豆	133.5	174.9	196.1	227.1
	合 計	204.9	254.1	275.5	306.5

2. 園芸部門

当組合管内は、北は中国山地から南は瀬戸内海にわたる変化に富んだ自然環境のなかで、多様かつ特色ある園芸産地・ブランド産地を形成しています。一方、産地では高齢化に伴う担い手の減少や耕作放棄地が増加する実態にあり、対策が課題になっています。

そこで、当組合管内で生産される野菜・花き・果実の品目ごとに、広域に生産されている販売額の大きい品目を「園芸重点品目(統一ブランド)」に、地域で特産的に生産されている品目を「地域特産品目(地域ブランド)」に位置づけた振興に取り組みます。ロットの小さい品目は集約対象として有益性の再検討に取り組みます。

加えて、経営コスト低減や円滑な運送手段の確保など複合する農業所得向上の課題に取り組み、担い手育成による農地の利活用促進や地域農業・農村の活力向上につなげます。

①野菜・花き重点品目の振興目標

野菜の振興は、関係機関が連携する「岡山県野菜振興計画—儲かるおかやま野菜産地パワーアッププラン」を基本に、独自性を加味した重点5品目を設定し、「担い手の確保・育成」「既存産地への支援」「ブランド力の向上」「加工・業務野菜の推進」などに取り組みます。

花きの振興は、関係機関が連携する「岡山県花き振興計画—令和の岡山花物語」との整合を保ち、重点2品目を設定し「生き生きとした生産体制づくり」「消費者に選ばれる花づくり」「消費拡大推進」などに取り組みます。



生産面積の目標

(単位：ha)

品 目	実 績	目 標			
	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	
野 菜	トマト	20.1	21.7	22.3	23.2
	キュウリ	11.0	11.5	11.9	12.5
	ナ ス	8.9	9.2	9.5	9.6
	アスパラガス	17.2	18.1	18.7	19.3
	白ネギ	27.6	30.2	31.4	32.8
	合 計	84.8	90.7	93.8	97.4
花 き	リンドウ	7.1	8.2	8.4	8.6
	スイートピー	3.5	3.5	3.5	3.5
	合 計	10.6	11.7	11.9	12.1

販売品取扱高の目標

(単位：千円)

品 目		実 績		目 標	
		令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度
野 菜	トマト	600,828	644,300	660,200	671,800
	キュウリ	331,219	343,400	355,500	368,100
	ナ ス	177,759	183,200	188,200	193,200
	アスパラガス	104,939	120,835	127,940	135,440
	白ネギ	120,165	131,000	136,000	140,000
	合 計	1,334,910	1,422,735	1,467,840	1,508,540
花 き	リンドウ	69,870	114,900	117,400	117,900
	スイートピー	383,319	390,000	390,000	390,000
	合 計	453,189	504,900	507,400	507,900

②果実重点品目の振興目標

果実の振興は、明治以前から先覚のたゆまぬ努力により培われた高度かつオリジナル技術を活かし、関係機関が連携する「岡山県果樹振興計画」との整合を保ち、重点2品目を設定して「うまいだものづくり」を基本方向とする「消費者ニーズに対応した生産の推進」「産地を支える担い手の育成・確保」「くだもの需要拡大」などに取り組みます。また、「安全・安心」を基本とする「国消国産」「地産地消」の消費拡大はもとより輸出を視野に、国内とは異なる農薬残留基準値を有するそれぞれの相手国との障壁を乗り越える産地生産体制の確立に向けた取り組みを支援します。



生産面積の目標

(単位：ha)

品 目		実 績		目 標	
		令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度
モ モ		364.0	366.0	368.5	371.9
ブドウ		662.1	682.4	700.2	713.5
ブドウ 品 種 別	ピオーネ	378.7	389.6	400.2	407.5
	シャインマスカット	189.4	196.8	202.5	207.0
	アレキサンドリア	6.5	7.1	7.1	7.1
	瀬戸ジャイアンツ	15.6	15.9	15.9	15.9
	オーロラブラック	26.7	28.3	29.7	31.0
	紫 苑	7.1	7.3	7.3	7.3
	その他ブドウ	38.1	37.4	37.5	37.7

販売品取扱高の目標

(単位：千円)

品 目		目 標			
		令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度
モモ		1,322,467	1,371,200	1,384,650	1,397,400
ブドウ		7,452,270	7,926,590	8,106,590	8,226,590
ブドウ 品 種 別	ピオーネ	3,283,462	3,629,900	3,696,300	3,743,700
	シャインマスカット	3,450,211	3,542,270	3,651,470	3,720,870
	アレキサンドリア	184,719	203,700	203,700	203,700
	瀬戸ジャイアンツ	138,040	140,200	140,200	140,400
	オーロラブラック	133,043	138,100	142,000	144,500
	紫苑	69,000	75,370	75,370	75,370
	その他ブドウ	193,794	197,050	197,550	198,050

3. 畜産部門

当組合管内では肉用牛はじめ繁殖牛など飼養規模の拡大や先進的な経営改善に取り組んでいますが、依然として小規模経営体の減少は続き、畜産を持続するためには個々の経営体の育成が課題になっています。

そこで、各種事業の活用推進や事務支援による生産基盤・体制強化のため、受益農家はじめ関係機関との連携に努めます。

また販売面では、“選ばれる魅力づくり”を目指し一層のブランド強化・消費宣伝（PR）活動などの実施による販売力強化に取り組みます。

①繁殖和牛経営

出荷された子牛の発育が一定基準を越える「おかやま四ツ☆子牛」ブランドの認定率向上を支援すべく関係機関と巡回指導を行うなど、有利販売・販売単価の底上げ支援に努めます。

②肥育牛経営

各地域のブランド牛については、既存のブランド力を最大限活用する生産及び販売体制の強化と消費宣伝（PR）活動に取り組みます。また、高品質と大量需要への対応を可能にする共通ブランド「おかやま和牛肉」の消費宣伝（PR）を強化し、知名度アップによる販売力強化に努めます。



生産頭数の目標

(単位：頭)

畜 種	目 標			
	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度
肉 牛	2,506	2,510	2,524	2,541
子 牛	3,320	3,339	3,398	3,443
肉 豚	4,724	4,800	4,800	4,800
合 計	10,550	10,649	10,722	10,784

販売品取扱高の目標

(単位：千円)

畜種	実績		目標	
	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度
肉牛	2,536,201	2,590,000	2,600,000	2,619,000
子牛	1,639,094	1,684,000	1,700,000	1,709,000
肉豚	260,078	260,000	260,000	260,000
その他畜産	382,336	334,000	337,000	339,000
合計	4,817,709	4,868,000	4,897,000	4,927,000

4. 直売所部門

直売所は食を通じて消費者と生産者が直接交わる場として、「地産地消」「国消国産」をアピールできる重要かつ有益な事業拠点です。広報媒体をフル活用した「食と農」の魅力発信や旬の食材を活用した料理教室・食農教育など、消費拡大や集客アップの企画及び実施に努めます。



出荷者数の目標

(単位：人)

統括本部	実績		目標	
	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度
岡山東	761	765	769	773
岡山西	2,101	2,128	2,158	2,190
倉敷かさや	1,147	1,165	1,185	1,205
びほく	1,265	1,285	1,302	1,320
新見	569	580	590	600
真庭	448	450	452	455
津山	827	859	872	883
合計	7,118	7,232	7,328	7,426

販売品取扱高の目標

(単位：千円)

統括本部	実績		目標	
	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度
岡山東	337,434	347,350	351,000	355,000
岡山西	1,015,514	1,061,108	1,109,000	1,151,000
倉敷かさや	404,493	420,000	422,000	424,000
びほく	292,824	298,000	303,000	308,000
新見	172,710	175,000	177,000	178,000
真庭	111,546	120,000	125,000	127,000
津山	272,262	278,542	283,000	287,000
合計	2,606,781	2,700,000	2,770,000	2,830,000

1 店舗運営及び事業構想

「JA晴れの国岡山ワンストップ店舗」として開設した“旬感広場”を中核（ハブ）とするJA全域店舗運営の強化及び産地（店舗）間の連帯を強化する事業活動に取り組みます。

また“旬感広場”については、今後の直売所店舗展開モデルを展望した事業運営に努めるとともに当組合の顔として、農畜産物情報発信の拠点・地域の拠り所としての運用及び活用を図ります。

2 魅力の発揮（品揃え）

地域それぞれに特長のある産物を、各直売所間における相互流通による取扱商品の共有・多彩化を図ります。また、当組合管内全域の四季折々の特産物や特産物を原料に開発するJAオリジナル6次化商品を各直売所に大量に取り揃える特売イベントの企画・実施を図ります。これら、広域JAならではの豊かで特長ある産物を活かした、「地産地消」「国消国産」旬の食材の魅力発揮による集客力アップに取り組みます。

3 晴ればれ直行便

管内各産地の選果場からJA自車便にて集荷した産物を直売所へ届ける直行便を拡充します。新鮮で良質な農畜産物を直接売場に届ける、一般スーパー等他店とは異なるJAの強みを活かした競争力強化を図り、消費者に満足感を提供します。

5. 企画販売

契約やネットなど企画販売については本店が企画調整機能を担い、各基幹アグリセンター及び直売所間における連携体制の整備を図り、スムーズな事業展開に努めます。



1 契約販売

食の多岐多様化に伴う加工・業務用野菜の需要が増加する状況のなかで、安定経営が見込めるキャベツ・タマネギの契約栽培の生産拡大に取り組みます。また、新たな品目として白ネギなどの需要開拓に取り組みます。

2 その他企画販売

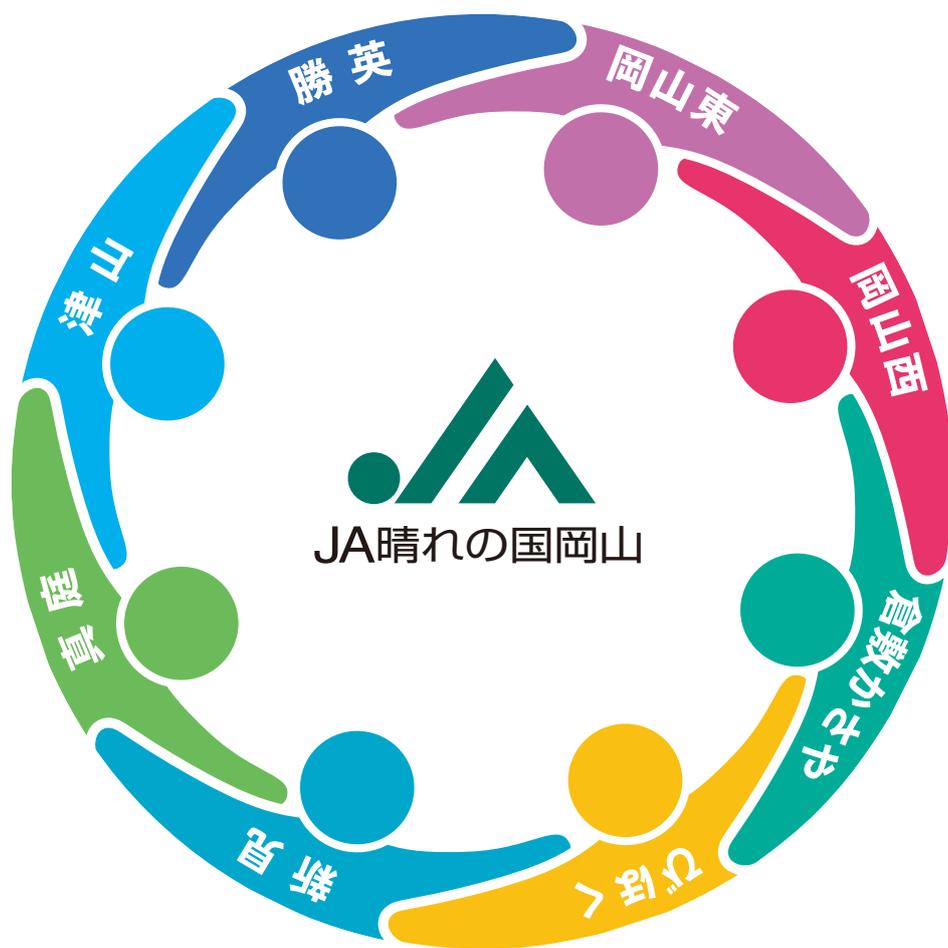
各地域における学校給食・オンラインショップ・ふるさと納税返礼品の対応強化をはじめ、新商品開発や企画商品の売り込みと消費拡大を図る各種即売イベントの開催など、販売ツール（手段・方法）の拡充に努めます。



統括本部別

農業振興計画

令和 7 年度 ▶ 令和 9 年度



岡山東統括本部

1. 生産振興方針

農業従事者の減少や高齢化をはじめ耕作放棄地の増加など地域農業が抱える課題をふまえ、「持続可能な農業」の実現を目指して「環境調和型農業*2」の理解浸透による段階的な取り組み推進を図ります。そのなかで、自然環境の保全や消費ニーズに呼応した安全・安心な農畜産物を安定的に供給できる「農業生産の拡大」により、消費者と農家組合員双方の「便益確保」に努めます。

一方、共同販売の強みを活かした多様な販路の開拓や契約取引の拡大をすすめるなど、農畜産物の有利販売に取り組み「農業所得の増大」を目指します。

また、新規就農者の受け入れ支援や集落営農の組織化・法人化をはじめ農業管理支援や税務等の経営管理支援など、高度かつ幅広く担い手経営体のニーズに対応する営農指導体制の強化に取り組みます。

1) 販売品取扱高の目標

生産者組織との連携による、共同販売の強みを発揮する体制の整備や消費ニーズを捉えた「こだわり商品」づくり及び出荷量を増やす生産販売の取り組み強化を図るなど、競争力ある産地育成を目指します。

(単位：千円)

品 目	実 績		目 標	
	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度
米	1,210,116	1,220,000	1,220,000	1,220,000
麦・豆・雑穀	13,598	18,100	18,880	18,880
野 菜	171,034	183,985	191,115	194,640
果 実	678,658	699,277	708,900	719,520
直 売 所	337,434	347,350	351,000	355,000
畜 産	22,467	22,500	22,500	22,500
そ の 他	82	100	100	100
合 計	2,433,389	2,491,312	2,512,495	2,530,640



2) 米集荷の目標

「適地適作」を観点に、地域に適した品種と売れる米づくりを基本に、奨励品種への集約化を図るとともに「良食味米生産」及び「環境保全型事業里海米」の推進など、競争力ある産地育成に取り組めます。さらに、酒造好適米「雄町」は酒造会社との契約継続を念頭に、実需に応じた生産量の確保や品質ニーズに合致した栽培改善などに取り組めます。

(単位：俵)

品 種 ・ 銘 柄	実 績	目 標			
	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	
主食用米	コシヒカリ	1,454.5	1,660.0	1,610.0	1,560.0
	あきたこまち	289.5	300.0	300.0	300.0
	きぬむすめ	19,137.5	23,750.0	23,730.0	23,720.0
	ヒノヒカリ	2,884.5	3,980.0	3,830.0	3,720.0
	朝 日	4,963.5	6,090.0	6,000.0	6,000.0
	アケボノ	2,565.0	3,220.0	3,275.0	3,330.0
	にこまる	2,442.0	3,360.0	3,375.0	3,480.0
	にじのきらめき	389.5	600.0	1,100.0	1,400.0
	もち米	147.5	208.0	230.0	230.0
	酒造好適米	17,454.5	15,830.0	15,835.0	15,840.0
	その他主食用米	921.5	1,835.0	1,765.0	1,705.0
水田活用米穀	5,038.8	3,647.0	3,450.0	3,350.0	
合 計	57,688.3	64,480.0	64,500.0	64,635.0	
(うち里海米)	4,108.0	4,500.0	4,700.0	4,800.0	

※水田活用米穀とは「飼料用米」「米粉用米」「加工用米」「新市場開拓用米」を指す。

3) 麦・大豆集荷の目標

実需者ニーズの把握に努め、大麦は経営所得安定対策交付金の活用を前提に、豆類（小豆・ササゲ）は契約栽培など、それぞれの需要に応じた作付けを推進します。

(単位：t)

品 目	実 績	目 標			
	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	
大 麦	133.3	200.0	200.0	200.0	
白 大 豆	4.7	7.8	8.0	8.0	
黒 大 豆	4.6	5.0	5.0	5.0	



4) 園芸重点品目（野菜・花き）振興の目標

野菜は、広域重点品目の「ナス・キュウリ・白ネギ」について、栽培技術の向上や気候変動に対応する栽培改善を図るなど、産地の維持拡大に取り組みます。

①生産面積

(単位:ha)

品 目		実 績			
		令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度
野 菜	ト マ ト	0.1	0.1	0.1	0.1
	キ ュ ウ リ	0.6	0.6	0.6	0.6
	ナ ス	3.5	3.6	3.7	3.8
	白 ネ ギ	5.0	5.1	5.1	5.3

②販売品取扱高

(単位:千円)

品 目		実 績			
		令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度
野 菜	ト マ ト	103	500	500	500
	キ ュ ウ リ	8,029	8,200	8,300	8,400
	ナ ス	71,144	73,000	76,000	79,000
	白 ネ ギ	11,677	13,000	14,000	15,000

5) 園芸重点品目（果実）振興の目標

生産者組織活動を中心に共選・共販体制による集荷力強化を図るとともに、高品質な「うまいくだものづくり」を基本に主要果樹の安定的な生産対策に取り組みます。さらには、新規就農者支援による担い手の確保・定着を図るとともに、高齢化等により栽培が困難となる農家組合員の圃場の有効活用を促進するなど、産地の維持・発展に取り組みます。

モモは、生産性の低い圃場や老木樹の新・改植による生産性の向上に取り組むとともに、晩生品種「白皇」の安定生産による長期間連続出荷体制の確立を目指します。

ブドウは、モモ同様に新・改植を図るとともにシャインマスカットの需要動向に注視しつつ面積拡大を図ります。また、こだわり商品「煌乃・誉乃」のブランド力向上による競争力のある産地づくりをすすめ、農業所得向上につなげます。

①生産面積

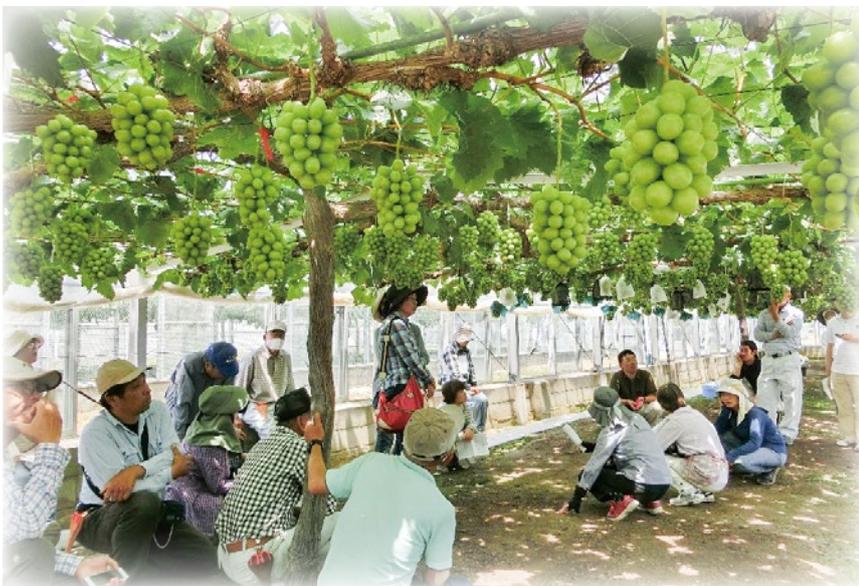
(単位:ha)

品 目		実 績			
		令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度
モ	モ	94.0	95.0	95.0	96.0
ブ	ド ウ	61.9	63.9	64.9	65.9
ブドウ 品種別	ピ オ ー ネ	31.0	31.0	31.0	31.0
	シャインマスカット	18.0	20.0	21.0	22.0
	アレキサンドリア	2.0	2.0	2.0	2.0
	瀬戸ジャイアンツ	0.3	0.3	0.3	0.3
	オーロラブラック	3.5	3.5	3.5	3.5
	紫 苑	0.1	0.1	0.1	0.1
	そ の 他 ブ ド ウ	7.0	7.0	7.0	7.0

②販売品取扱高

(単位：千円)

品 目		実 績			
		令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度
モ	モ	199,887	230,000	230,100	230,600
ブ	ド	445,342	465,640	474,140	482,640
ブドウ 品 種 別	ピ オ ー ネ	101,661	103,000	103,500	104,000
	シャインマスカット	307,464	324,470	332,470	340,470
	アレキサンドリア	2,462	3,000	3,000	3,000
	瀬戸ジャイアンツ	4,992	5,000	5,000	5,000
	オーロラブラック	14,342	15,000	15,000	15,000
	紫 苑	168	170	170	170
	そ の 他 ブ ド ウ	14,253	15,000	15,000	15,000



6) 畜産振興の目標

畜産物の生産維持に向けて関係機関と連携し、飼養管理・育成技術の向上や繁殖基盤の強化などによる優良子牛の安定生産に取り組み、農業所得の安定・向上を図ります。

①生産頭数

(単位:頭)

畜種	実績		目標	
	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度
肉牛	1	-	-	-
子牛	42	44	46	48

②販売品取扱高

(単位:千円)

畜種	実績		目標	
	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度
肉牛	1,359	-	-	-
子牛	21,108	22,500	22,500	22,500

7) 地域特産品目振興の目標

地域の立地を活かした栽培技術の普及向上を図り、特色ある農産物づくりと高品質・安定生産に努めます。また、高齢化に伴う生産力低下の歯止め策として、新規就農者掘り起こしによる産地の維持・発展に取り組みます。

①生産面積

(単位:ha)

品目	実績		目標	
	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度
カキ	5.3	5.3	5.3	5.3
ミカン(柑橘類)	6.7	6.7	6.7	6.7
イチジク	1.8	1.8	1.8	1.8
イチゴ	0.5	0.6	0.6	0.6
エンダイブ	2.8	2.8	2.9	3.0
黄ニラ	1.8	1.8	1.8	1.8
スナックエンドウ	2.2	2.4	2.4	2.4
小豆(ササゲ含む)	7.5	7.5	7.5	7.5

②販売品取扱高

(単位:千円)

品目	実績		目標	
	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度
カキ	4,301	4,500	4,500	4,500
ミカン(柑橘類)	1,600	1,600	1,600	1,600
イチジク	4,055	4,500	5,000	6,000
イチゴ	19,600	22,000	22,000	22,000
エンダイブ	28,000	29,000	30,000	31,000
黄ニラ	11,300	12,000	12,000	12,000
スナックエンドウ	7,946	10,000	10,000	10,000
小豆(ササゲ含む)	153	200	200	200

8) 契約・加工用品目振興の目標

大型米麦農家を中心に、水稻の転作品目として収益の見通しが立てやすい加工業務用キャベツの契約野菜の作付けを推進し、安定的な農業所得の向上に取り組みます。

① 販売品取扱高

(単位：千円)

品 目	実 績		目 標	
	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度
キ ャ ベ ツ	24,800	25,000	27,000	28,000

9) 農畜産物直売所振興の目標

季節に応じた多品目農作物の計画的な作付け推進により、安定的な出荷体制の構築に取り組みます。また、出荷者会員と消費者との交流を通じて、生産意欲向上や地域活性化を図る拠点づくりに資する店舗運営に努めます。

① 出荷者数

(単位：人)

品 目	実 績		目 標	
	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度
アグリびぜん	209	211	213	215
百菜市場和気店	552	554	556	558
合 計	761	765	769	773

② 販売品取扱高

(単位：千円)

品 目	実 績		目 標	
	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度
アグリびぜん	67,075	66,350	68,000	70,000
百菜市場和気店	270,359	281,000	283,000	285,000
合 計	337,434	347,350	351,000	355,000



2. 担い手及び新規就農者の育成支援

「就農促進トータルサポート事業」等への取り組みのなかで、就農相談から就農後の技術習得さらには経営相談に至るまで、関係機関と連携する一貫した支援体制により、経営の安定化を支援します。

また、各種研修会・講習会による農業生産基盤の底上げを図るとともに、税理士による税務相談や所得税及び消費税の確定申告支援を実施するなど青色申告会を基軸とした税務相談活動による経営管理支援の取り組みを通じて、担い手経営体の育成・強化を目指します。

① 認定農業者数の目標

(単位：経営体)

市 町 名	実 績	目 標		
	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度
岡 山 市	21	22	23	24
備 前 市	25	26	27	28
赤 磐 市	123	125	127	129
和 気 町	38	39	40	41
合 計	207	212	217	222

② - (1) 集落営農組合数の目標

(単位：経営体)

市 町 名	実 績	目 標		
	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度
岡 山 市	8	8	8	8
赤 磐 市	3	3	3	3
和 気 町	5	5	5	5
合 計	16	16	16	16

② - (2) 集落営農法人数の目標

(単位：経営体)

市 町 名	実 績	目 標		
	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度
赤 磐 市	1	1	1	1
和 気 町	1	1	1	1
合 計	2	2	2	2

③ 新規就農者数の目標 (単年度)

(単位：経営体)

市 町 名	実 績	目 標		
	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度
岡 山 市	-	1	1	1
備 前 市	3	3	3	3
赤 磐 市	6	6	6	6
和 気 町	4	4	4	4
合 計	13	14	14	14

岡山西統括本部

1. 生産振興方針

農業所得の向上、農業生産の拡大を推進する「出向く営農活動」の体制整備に注力し、「持続可能な農業」の実現に向けて、地域を担う「新規就農者・農業後継者」の育成に努め、地域農業の振興と活性化に取り組みます。

近年、問題となっている温暖化に対応した「環境調和型農業*2」への取り組みや栽培技術の検討並びに高温対策品種の選定など、関係機関との連携の下で対応をすすめていきます。

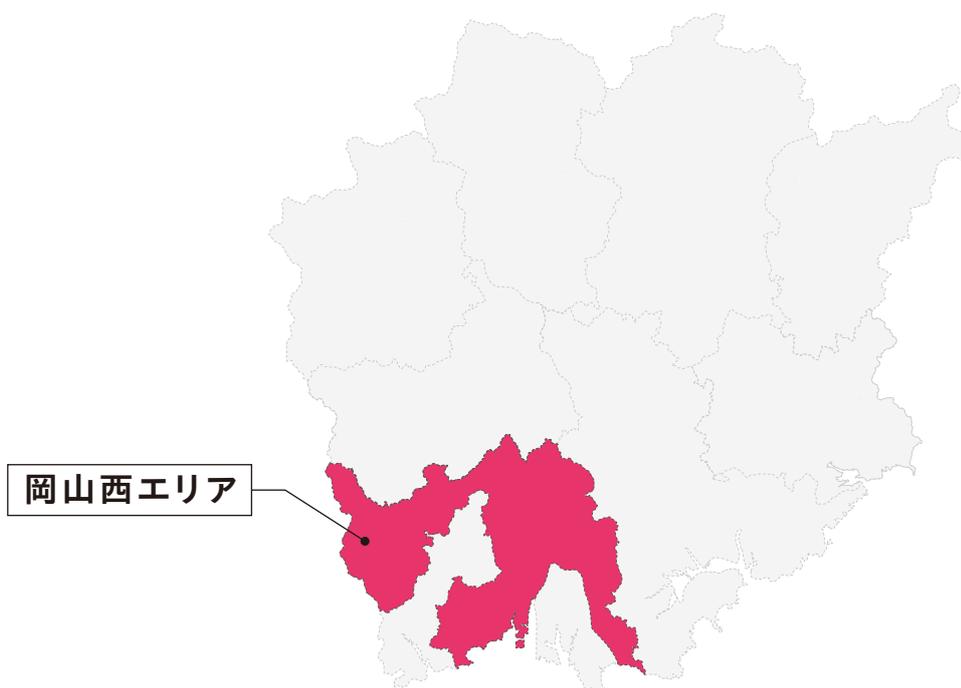
また市町との連携を図り、耕作放棄地の減少にも努めます。

1) 販売品取扱高の目標

農業所得増大に向け、管内農畜産物の、運送事情をも考慮に入れた販路選定・拡大を図り、有利販売に努めます。さらには、生産者組織と連携して、共同販売の強みを発揮する物量的ブランド力を高める集荷拡大に取り組み、競争力のある産地づくりを目指します。

(単位：千円)

品 目	実 績		目 標	
	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度
米	1,314,217	1,315,000	1,315,000	1,315,000
麦・豆・雑穀	39,338	26,000	27,000	27,000
野 菜	214,274	215,835	220,885	230,000
果 実	3,445,254	3,450,000	3,520,000	3,570,000
花 き・花 木	393,895	400,000	400,000	400,000
直 売 所	1,015,514	1,061,108	1,109,000	1,151,000
畜 産	589,794	590,000	599,000	599,500
そ の 他	862	-	-	-
合 計	7,013,149	7,057,943	7,190,885	7,292,500



2) 米集荷の目標

「適地適作」の品種選定を基本に奨励品種への集約を図りつつ、品質向上・増収に向けた研修会の開催や環境への配慮とともに実需ニーズをふまえた「特別栽培米」「里海米」の推進などを通して、集荷拡大に取り組みます。

(単位：俵)

品 種 ・ 銘 柄		実 績			
		令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度
主食用米	コシヒカリ	3,342.0	3,500.0	3,500.0	3,500.0
	あきたこまち	366.5	400.0	400.0	400.0
	きぬむすめ	16,585.0	19,000.0	19,000.0	19,000.0
	ヒノヒカリ	7,257.5	7,500.0	7,200.0	7,000.0
	朝 日	11,651.5	12,000.0	12,000.0	12,000.0
	アケボノ	11,252.5	13,000.0	13,000.0	13,000.0
	にこまる	7,625.0	9,000.0	9,000.0	9,000.0
	にじのきらめき	24.0	500.0	1,000.0	1,500.0
	もち米	214.5	300.0	300.0	300.0
	酒造好適米	6.0	10.0	10.0	10.0
	その他主食用米	645.0	605.0	605.0	605.0
水田活用米穀		7,475.6	1,000.0	1,000.0	1,000.0
合 計		66,445.1	66,815.0	67,015.0	67,315.0
(うち里海米)		2,485.0	2,600.0	2,800.0	3,000.0

※水田活用米穀とは「飼料用米」「米粉用米」「加工用米」「新市場開拓用米」を指す。

3) 麦・大豆集荷の目標

水田活用戦略作物としての助成制度活用による担い手農家への作付け推進を図り、収益向上に取り組みます。

(単位 :t)

品 目		実 績			
		令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度
大	麦	301.8	160.0	170.0	170.0
小	麦	62.3	65.0	65.0	65.0
白	大豆	17.8	18.0	18.0	18.0
黒	大豆	5.0	6.0	6.0	7.0



4) 園芸重点品目（野菜・花き）振興の目標

産地の特色を活かした高品質で安定的な野菜づくりを図るとともに、作付け品目・品種の選定及び面積拡大を推進するなど、儲かる野菜づくりを振興します。

①生産面積

(単位:ha)

品 目	目 標	実 績			
		令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度
野 菜	ト マ ト	0.2	0.2	0.2	0.2
	キ ュ ウ リ	0.3	0.3	0.3	0.3
	ナ ス	1.9	2.0	2.0	2.0
	アスパラガス	0.3	0.3	0.3	0.3
	白 ネ ギ	2.0	2.0	2.0	2.0
花 き	リ ン ド ウ	0.1	0.2	0.2	0.2
	ス イ ー ト ピ ー	3.5	3.5	3.5	3.5

②販売品取扱高

(単位:千円)

品 目	目 標	実 績			
		令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度
野 菜	ト マ ト	4,234	4,400	4,400	4,400
	キ ュ ウ リ	9,801	10,000	10,000	10,000
	ナ ス	35,314	37,000	37,000	38,000
	アスパラガス	1,133	1,200	1,200	1,200
	白 ネ ギ	4,824	5,000	5,000	5,000
花 き	リ ン ド ウ	331	400	400	400
	ス イ ー ト ピ ー	383,319	390,000	390,000	390,000



5) 園芸重点品目（果実）振興の目標

主力品目である、モモ・ブドウについては「うまいくだものづくり」を基本に地域で培われた栽培技術の継承や新技術の導入による、栽培技術の高位平準化に取り組みます。

また産地間連携に取り組み、集出荷場の再編整備や効率的な運営の検討を行います。

①生産面積

(単位:ha)

品 目		実 績			
		令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度
モ	モ	204.1	205.0	207.0	209.0
ブ	ド	149.0	153.0	158.0	163.0
ブドウ 品 種 別	ピ オ ー ネ	59.5	62.0	65.0	68.0
	シャインマスカット	53.4	54.0	55.0	56.0
	アレキサンドリア	4.4	5.0	5.0	5.0
	瀬戸ジャイアンツ	5.2	5.0	5.0	5.0
	オーロラブラック	10.7	12.0	13.0	14.0
	紫 苑	4.8	5.0	5.0	5.0
	そ の 他 ブ ド ウ	11.0	10.0	10.0	10.0

②販売品取扱高

(単位:千円)

品 目		実 績			
		令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度
モ	モ	977,493	980,000	990,000	1,000,000
ブ	ド	2,405,539	2,448,000	2,489,000	2,520,000
ブドウ 品 種 別	ピ オ ー ネ	533,021	550,000	570,000	580,000
	シャインマスカット	1,506,523	1,510,000	1,530,000	1,550,000
	アレキサンドリア	181,572	200,000	200,000	200,000
	瀬戸ジャイアンツ	49,148	50,000	50,000	50,000
	オーロラブラック	37,843	38,000	39,000	40,000
	紫 苑	34,744	40,000	40,000	40,000
	そ の 他 ブ ド ウ	62,689	60,000	60,000	60,000



6) 畜産振興の目標

優良系統の導入とITなどの新技術やET子牛の生産拡大により、増頭を図ります。また経営安定・肥育技術向上のための研修会や巡回指導を実施します。肉用牛は、高品質な和牛肉の生産拡大に努めます。

①生産頭数

(単位：頭)

畜種	実績		目標	
	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度
肉牛	104	105	105	105
子牛	1,012	1,000	1,025	1,050

②販売品取扱高

(単位：千円)

畜種	実績		目標	
	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度
肉牛	85,203	91,250	92,500	93,000
子牛	496,873	498,750	506,500	506,500
その他畜産	7,718	-	-	-

7) 地域特産品目振興の目標

地域特性を活かしたブランド力強化による産地の維持発展を図るため、立地に見合った品質向上対策の推進や栽培技術の改善・普及による安定生産に取り組みます。

①生産面積

(単位：ha)

品目	実績		目標	
	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度
ニンジン	1.5	1.5	1.5	1.5
ダイコン	1.0	1.0	1.0	1.0
トレビス	1.0	1.0	1.0	1.0
セロリ	0.6	0.7	0.7	0.7
たけのこ	20.0	20.0	20.0	20.0

②販売品取扱高

(単位：千円)

品目	実績		目標	
	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度
ニンジン	7,042	8,000	8,000	8,000
ダイコン	4,588	5,000	5,000	5,000
トレビス	3,333	5,000	5,000	5,000
セロリ	256	2,000	3,000	3,000
たけのこ	9,946	10,000	12,000	15,000



8) 契約・加工用品目振興の目標

農家経営の安定化を目指し、作業計画や収益性が見通せる契約販売の推進に取り組み、農家組合員の農業所得向上を目指します。

①販売品取扱高

(単位：千円)

品 目	実 績		目 標	
	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度
た け の こ	1,732	2,000	2,000	2,000
タ マ ネ ギ	2,761	3,000	3,000	3,000

9) 農畜産物直売所振興の目標

旬感広場を中心に直売所の強みを発揮するため「地産地消」をアピールする運営体制の充実を図り、集客力向上に努めます。また、「晴ればれ直行便」をフル活用し、広域JAとして既存エリアを越えた特色ある農畜産物の流通と受け入れ体制を整え、魅力ある品揃えの拡充に取り組みます。

①出荷者数

(単位：人)

品 目	実 績		目 標	
	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度
旬感広場「晴れのち晴れ」	861	880	900	920
早島町直売所ふれあい青空市	145	146	148	150
児島直売所「郷の里」	134	135	137	140
船 穂 直 売 所	100	100	100	100
玉島北直売所「メルカートたまきた果菜館」	273	275	278	280
金光直売所「みわの里」	153	155	157	160
鴨方直売所ふれあい朝市「なごみ」	159	160	160	160
里庄直売所「里ちゃん」	80	80	80	80
井原直売所「いばら愛菜館」	196	197	198	200
合 計	2,101	2,128	2,158	2,190

②販売品取扱高

(単位：千円)

品 目	実 績		目 標	
	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度
旬感広場「晴れのち晴れ」	554,020	589,608	625,000	656,000
早島町直売所ふれあい青空市	29,523	30,000	31,000	32,000
児島直売所「郷の里」	11,977	13,000	13,500	14,000
船 穂 直 売 所	76,225	77,000	78,000	79,000
玉島北直売所「メルカートたまきた果菜館」	140,153	145,000	150,000	155,000
金光直売所「みわの里」	30,261	32,000	33,000	34,000
鴨方直売所ふれあい朝市「なごみ」	60,168	60,500	62,000	63,000
里庄直売所「里ちゃん」	11,391	12,000	12,500	13,000
井原直売所「いばら愛菜館」	101,797	102,000	104,000	105,000
合 計	1,015,514	1,061,108	1,109,000	1,151,000

2. 担い手及び新規就農者の育成支援

地域農業の発展と持続化に向けて、生産者組織をはじめ関係機関と一体になって次世代を担う農家への積極的支援活動を展開します。

① 認定農業者数の目標

(単位：経営体)

市 町 名	実 績	目 標			
	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	
倉 敷 市	198	201	204	207	
井 原 市	116	117	118	119	
総 社 市	107	109	111	113	
浅 口 市	15	15	15	15	
早 島 町	2	2	2	2	
里 庄 町	9	9	9	9	
合 計	447	453	459	465	

② - (1) 集落営農組合数の目標

(単位：経営体)

市 町 名	実 績	目 標			
	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	
倉 敷 市	1	1	1	1	
井 原 市	1	1	1	1	
総 社 市	7	7	7	7	
合 計	9	9	9	9	

② - (2) 集落営農法人数の目標

(単位：経営体)

市 町 名	実 績	目 標			
	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	
倉 敷 市	1	1	1	1	
井 原 市	1	1	1	1	
総 社 市	7	7	7	7	
合 計	9	9	9	9	

③ 新規就農者数の目標 (単年度)

(単位：経営体)

市 町 名	実 績	目 標			
	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	
倉 敷 市	16	15	15	15	
井 原 市	6	5	5	5	
総 社 市	4	5	5	5	
浅 口 市	1	1	1	1	
合 計	27	26	26	26	

倉敷かさや統括本部

1. 生産振興方針

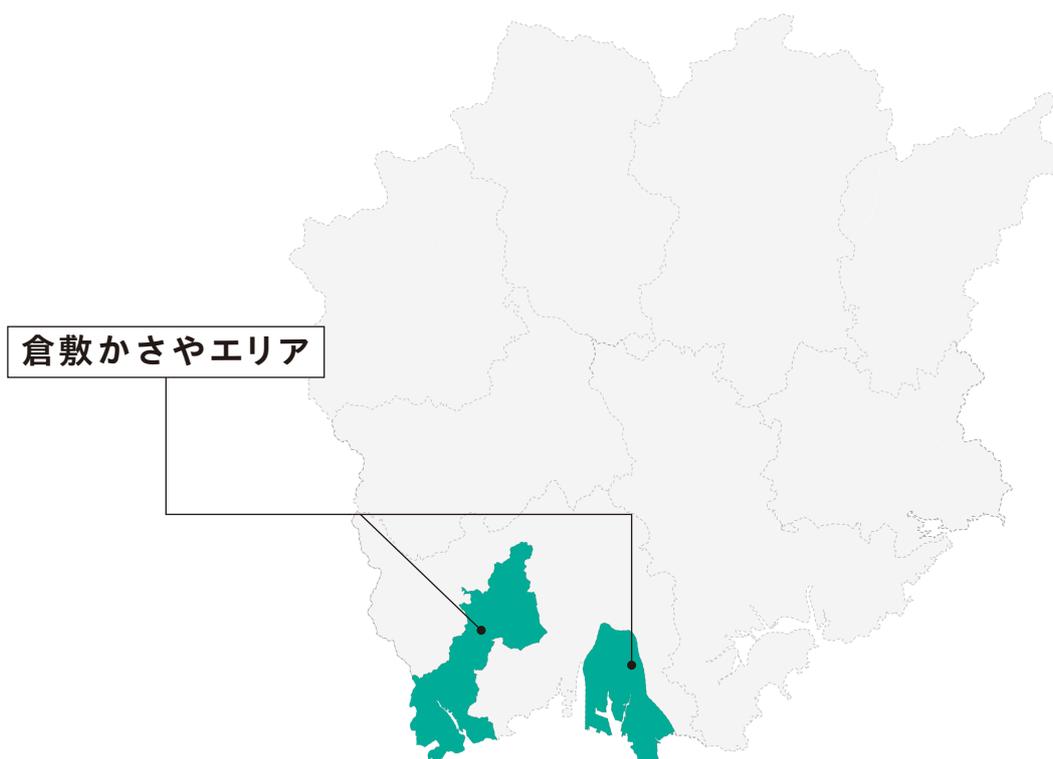
管内3か所のアグリセンターを中心に、それぞれの地域特色を活かした水稲・野菜・果実・花卉の生産振興を図ります。取扱高が1億円以上の品目は米及びゴボウ・レンコン、業務用タマネギ・キャベツがあり、取扱高3千万円程度の品目にはアスパラガス・ブドウがあり、これらの品目を中心に「農業の持続性確保」を目指す「環境調和型農業*2」の推進を視野に、関係機関と連携して個別農家の規模拡大や技術向上を通して産地の活性化及び地域農業の振興に取り組みます。

1) 販売品取扱高の目標

生産者組織と連携して「よりよい営農活動*3」への理解増進と段階的な取り組み推進を図り、環境負荷への低減技術や品質改善に資する新技術の習得などを通じてブランド力強化に努めるとともに、高品質で安定した生産出荷による有利販売につなげ、目標達成を目指します。

(単位：千円)

品目	実績	目標		
	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度
米	217,603	218,000	219,000	220,000
麦・豆・雑穀	10,454	9,100	9,120	9,200
野菜	808,787	900,620	951,000	990,000
果実	81,538	84,550	86,000	88,000
花き・花木	12,770	13,350	13,800	14,000
直売所	404,493	420,000	422,000	424,000
その他	6,409	6,450	6,450	6,450
合計	1,542,053	1,652,070	1,707,370	1,751,650



2) 米集荷の目標

消費者へ直接販売する「元気玄米」を積極的に推進するとともに、高温障害対策としての品種選定及び栽培指導を行うなど、集荷数量の増加に取り組みます。

(単位：俵)

品 種 ・ 銘 柄		実 績			
		令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度
主食用米	コシヒカリ	90.0	100.0	110.0	120.0
	きぬむすめ	2,902.5	3,500.0	3,550.0	3,600.0
	ヒノヒカリ	3,972.5	4,500.0	4,500.0	4,600.0
	朝 日	1,370.5	1,500.0	1,500.0	1,500.0
	アケボノ	414.5	450.0	450.0	450.0
	にこまる	887.0	1,500.0	1,550.0	1,600.0
	にじのきらめき	11.5	20.0	20.0	30.0
	もち米	48.0	50.0	50.0	50.0
	酒造好適米	241.5	250.0	250.0	250.0
	その他主食用米	213.5	220.0	220.0	220.0
水田活用米穀		1,511.1	1,000.0	1,000.0	1,000.0
合 計		11,662.6	13,090.0	13,200.0	13,420.0
(うち里海米)		676.0	700.0	800.0	900.0

※水田活用米穀とは「飼料用米」「米粉用米」「加工用米」「新市場開拓用米」を指す。

3) 麦・大豆集荷の目標

(単位：t)

品 目		実 績			
		令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度
大 麦		49.5	45.0	45.0	45.0
白 大 豆		0.2	0.2	0.2	0.2
黒 大 豆		5.5	5.5	6.0	6.0

4) 園芸重点品目（野菜・花き）振興の目標

アスパラガスを引き続き水田転作作物としての推進品目に位置づけ、関係機関と連携して生産振興及び産地育成に取り組みます。具体的には、早期出荷へ向けた栽培による高単価の実現や新技術導入による秀品率向上など農業所得の向上に努め、個々の作付け拡大意欲の高揚を図ります。また、既存農家の生産意欲を新規作付け農家の掘り起こしにつなげる推進活動を展開します。

①生産面積

(単位：ha)

品 目		実 績			
		令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度
野 菜	ナ ス	0.4	0.4	0.4	0.4
	アスパラガス	3.7	4.0	4.2	4.5

②販売品取扱高

(単位：千円)

品 目		目 標			
		令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度
野 菜	ナ ス	1,135	1,150	1,150	1,150
	アスパラガス	31,277	32,000	33,000	35,000

5) 園芸重点品目（果実）振興の目標

重点推進品目のブドウについて、主要品種であるピオーネ・シャインマスカットへの品種集約に取り組む他、栽培技術の高位平準化による高品質安定生産や生産コスト低減など、農業所得の向上を目指します。

①生産面積

(単位：ha)

品 目		目 標			
		令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度
モ	モ	4.2	4.2	4.2	4.2
ブ	ド	15.5	15.7	15.7	15.7
ブドウ 品 種 別	ピ オ ー ネ	5.4	5.5	5.5	5.5
	シャインマスカット	6.4	6.5	6.5	6.5
	瀬戸ジャイアンツ	0.5	0.5	0.5	0.5
	オーロラブラック	1.5	1.5	1.5	1.5
	紫 苑	0.2	0.2	0.2	0.2
	そ の 他 ブ ド ウ	1.5	1.5	1.5	1.5

②販売品取扱高

(単位：千円)

品 目		目 標			
		令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度
モ	モ	1,005	1,200	1,250	1,300
ブ	ド	44,750	47,350	47,650	48,150
ブドウ 品 種 別	ピ オ ー ネ	8,300	8,500	8,600	8,700
	シャインマスカット	30,535	32,800	33,000	33,400
	瀬戸ジャイアンツ	3,386	3,400	3,400	3,400
	オーロラブラック	1,490	1,500	1,500	1,500
	紫 苑	228	300	300	300
	そ の 他 ブ ド ウ	811	850	850	850



6) 地域特産品目振興の目標

地域の特色ある伝統産物、倉敷管内のGI登録連島ゴボウやレンコン、笠岡管内のイチジク、矢掛管内のリーキなどについて、「安全・安心」及び「安定生産」に根ざした生産活動に取り組むと同時に、地域色を活かした有利販売体制の拡充を図るなど、生産・販売一体となって産地の維持・発展に努めます。

①生産面積

(単位:ha)

品 目	実 績		目 標	
	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度
ゴ ボ ウ	13.0	13.5	14.0	14.5
レ ン コ ン	34.0	35.0	35.5	36.0
シ ョ ウ ガ	1.2	1.2	1.2	1.2
リ ー キ	0.8	0.8	0.9	0.9
イ チ ジ ク	10.5	10.5	10.5	10.5
イ チ ゴ	1.7	1.8	1.9	2.0
ラ ー ク ス パ ー	0.6	0.6	0.6	0.6

②販売品取扱高

(単位:千円)

品 目	実 績		目 標	
	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度
ゴ ボ ウ	170,928	171,000	172,000	172,000
レ ン コ ン	99,820	108,000	109,000	110,000
シ ョ ウ ガ	19,115	19,300	19,300	19,300
リ ー キ	1,248	1,250	1,350	1,350
イ チ ジ ク	20,032	20,550	21,000	21,000
イ チ ゴ	10,802	12,300	12,400	12,500
ラ ー ク ス パ ー	6,728	6,800	6,850	6,850



7) 契約・加工用品目振興の目標

笠岡干拓地域（大規模畑作経営地帯）並びに矢掛水田地域の両地帯における加工用キャベツ・タマネギ栽培の安定的規模拡大を図るため、需給の維持及び増量に向けた実需との「適時適切」な情報の共有化に努め、産地拡大へのスムーズな反映に取り組みます。

①販売品取扱高

(単位：千円)

品 目	実 績		目 標	
	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度
タ マ ネ ギ	201,596	241,950	255,000	260,000
キ ャ ベ ツ	23,288	50,000	50,000	50,000

8) 農畜産物直売所振興の目標

管内4つの直売所の連携のみならず、JA 広域にまたがる各地域の特産品を旬な時期に商品交流する体制の充実や特売企画品及び地域特産品の販売 PR 活動の強化など、直売所の魅力及び集客力アップに向けて、出荷者会員と職員が一丸となって取り組んでいきます。

①出荷者数

(単位：人)

店 舗 名	実 績		目 標	
	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度
倉敷青空市「やさい畑」	220	225	230	235
福田青空市「すいれん」	276	280	285	290
笠岡ふれあい青空市「しおかぜ」	268	275	280	285
矢掛宿場の青空市「きらり」	383	385	390	395
合 計	1,147	1,165	1,185	1,205

②販売品取扱高

(単位：千円)

店 舗 名	実 績		目 標	
	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度
倉敷青空市「やさい畑」	59,762	60,000	61,000	61,500
福田青空市「すいれん」	110,163	112,500	113,000	113,500
笠岡ふれあい青空市「しおかぜ」	85,139	97,500	98,000	99,000
矢掛宿場の青空市「きらり」	149,429	150,000	150,000	150,000
合 計	404,493	420,000	422,000	424,000



2. 担い手及び新規就農者の育成支援

認定農業者並びに生産者組織及び関係機関と連携して、品目別の栽培講習会や実践学習会等を交えながら、次世代担い手候補者の発掘とともに新規就農に向けた積極的支援活動を行うなど、新規就農者の確保育成に取り組みます。

① 認定農業者数の目標

(単位：経営体)

市 町 名	実 績	目 標		
	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度
倉 敷 市	46	46	47	48
笠 岡 市	81	82	83	84
矢 掛 町	46	47	48	49
合 計	173	175	178	181

② - (1) 集落営農組合数の目標

(単位：経営体)

市 町 名	実 績	目 標		
	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度
笠 岡 市	5	5	5	5
矢 掛 町	7	7	7	7
合 計	12	12	12	12

② - (2) 集落営農法人数の目標

(単位：経営体)

市 町 名	実 績	目 標		
	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度
笠 岡 市	3	3	3	3
矢 掛 町	6	6	6	6
合 計	9	9	9	9

③ 新規就農者数の目標 (単年度)

(単位：経営体)

市 町 名	実 績	目 標		
	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度
倉 敷 市	2	2	2	2
笠 岡 市	2	2	2	2
矢 掛 町	1	1	1	1
合 計	5	5	5	5



びほく統括本部

1. 生産振興方針

地域農業は、加速する農業従事者減少に伴う耕作放棄地や鳥獣被害の増加に加え、生産資材の高騰など農業経営を圧迫する新たな課題も抱えるなかで「持続可能な農業」を目指す「環境調和型農業*2」の段階的取り組みや経営安定に向けた諸対策を講じるとともに、新規就農者を確保・育成する体制の整備はもとより実需者ニーズに対応した安全・安心な特産物を安定的に供給できる産地づくりを展開します。また、主要農畜産物のブランド向上をはじめ有利販売に導く重点市場や新たな契約取引先など有益な販路開拓・設定とともに直売所間連携による「地産地消」「国消国産」を推進し、農業所得の増大を目指します。

併せて、集落営農の組織強化・法人化や農業経営管理支援、担い手農家育成、農作業受託、経営体の高度なニーズなどに対応する営農指導体制の強化に取り組みます。

1) 販売品取扱高の目標

各農畜産物についてブランド力強化を最優先に取り組むことで有利販売につなげ、さらに米や園芸については重点品目・地域特産品目・新規導入品目の作付け推進を図るなど、農業所得増大の取り組みを通して取扱高達成を目指します。

(単位：千円)

品 目	実 績	目 標		
	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度
米	414,018	448,300	452,000	455,000
豆・雑穀	76,796	77,000	77,000	77,920
野菜	494,918	503,000	506,000	508,360
果実	1,874,914	2,050,000	2,070,000	2,090,000
花き・花木	7,522	8,000	8,300	8,500
直売所	292,824	298,000	303,000	308,000
畜産	780,747	788,250	800,000	816,500
その他	10,544	7,000	7,000	7,000
合 計	3,952,283	4,179,550	4,223,300	4,271,280



2) 米集荷の目標

『売れる米づくり』を念頭に、主力品種である“コシヒカリ・あきたこまち”を中心に作付け推進を図るとともに、多収穫が期待できる“にじのきらめき”の作付け推進や販売体制の構築に取り組みます。

(単位：俵)

品 種 ・ 銘 柄		実 績			
		令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度
主食用米	コシヒカリ	30,060.5	35,550.0	35,550.0	35,550.0
	あきたこまち	3,581.5	4,000.0	4,000.0	4,000.0
	きぬむすめ	1,151.0	1,500.0	1,500.0	1,500.0
	にじのきらめき	141.0	500.0	750.0	1,000.0
	もち米	391.0	350.0	350.0	350.0
	その他主食用米	1,772.5	1,450.0	1,200.0	950.0
水田活用米穀		3,054.0	1,650.0	1,650.0	1,650.0
合 計		40,151.5	45,000.0	45,000.0	45,000.0
(うち里海米)		116.5	150.0	150.0	150.0

※水田活用米穀とは「飼料用米」「米粉用米」「加工用米」「新市場開拓用米」を指す。

3) 麦・大豆集荷の目標

(単位 :t)

品 目	実 績			
	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度
黒 大 豆	45.0	50.0	50.0	50.0



4) 園芸重点品目（野菜・花き）振興の目標

主力品目については生産者組織や関係機関と連携して、地域色を活かした安全・安心で高品質な生産振興に努めます。また、生産技術向上による収量アップや新規栽培農家の確保による増産への誘導など出荷ロットの拡大に取り組み、農業所得の増大を図ります。

①生産面積

(単位:ha)

品 目		実 績			
		令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度
野 菜	ト マ ト	10.5	11.4	11.8	12.2
	キ ュ ウ リ	1.6	1.7	1.7	1.8
	ナ ス	0.4	0.4	0.5	0.5
	ア ス パ ラ ガ ス	1.4	1.6	1.7	1.8

②販売品取扱高

(単位:千円)

品 目		実 績			
		令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度
野 菜	ト マ ト	353,136	367,400	381,300	392,900
	キ ュ ウ リ	59,497	60,000	60,000	60,500
	ナ ス	10,319	11,000	11,000	12,000
	ア ス パ ラ ガ ス	5,321	7,600	8,200	8,700



5) 園芸重点品目（果実）振興の目標

主力品目のブドウ・モモについては、「うまいくだものづくり」を基本に安全・安心で高品質な果実生産に努めます。一方では産地の維持拡大に向けて、就農希望者受け入れ体制の拡充や新規栽培農家の掘り起こし・確保など、さらなる取り組み推進の強化を図ります。

また、共同選果・販売のさらなる有利性を発揮する組織力とブランド力強化に取り組み、有利販売による農業所得の増大を図ります。

①生産面積

(単位:ha)

品 目		目 標			
		令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度
モ	モ	12.2	12.3	12.7	13.0
ブ	ド	162.7	166.1	169.1	171.9
ブドウ 品種別	ピ オ ー ネ	103.7	105.6	107.3	109.0
	シャインマスカット	41.2	42.5	43.6	44.5
	アレキサンドリア	0.1	0.1	0.1	0.1
	瀬戸ジャイアンツ	4.7	4.7	4.7	4.7
	オーロラブラック	2.9	3.1	3.3	3.5
	紫 苑	0.3	0.3	0.3	0.3
	その 他 ブ ド ウ	9.8	9.8	9.8	9.8

②販売品取扱高

(単位:千円)

品 目		目 標			
		令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度
モ	モ	42,623	49,300	50,600	51,800
ブ	ド	1,824,689	1,972,100	2,008,600	2,027,200
ブドウ 品種別	ピ オ ー ネ	1,109,233	1,247,400	1,272,200	1,280,000
	シャインマスカット	612,966	620,000	630,000	640,000
	アレキサンドリア	686	700	700	700
	瀬戸ジャイアンツ	39,886	40,000	40,000	40,000
	オーロラブラック	21,902	23,500	25,200	26,000
	紫 苑	8,016	8,300	8,300	8,300
	その 他 ブ ド ウ	32,000	32,200	32,200	32,200



6) 畜産振興の目標

優良な子牛をより有利に販売する取り組み並びに地域ブランドである「備中牛」や「米ブレっ
とん」の消費拡大につながるPR活動などを通して、生産振興を図ります。

①生産頭数

(単位:頭)

畜種	実績		目標	
	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度
肉牛	206	206	210	220
子牛	385	390	410	420
肉豚	4,676	4,800	4,800	4,800

②販売品取扱高

(単位:千円)

畜種	実績		目標	
	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度
肉牛	253,247	258,250	260,000	270,000
子牛	157,160	160,000	170,000	175,000
肉豚	257,793	260,000	260,000	260,000
その他畜産	112,548	110,000	110,000	111,500

7) 地域特産品目振興の目標

地域の特色を活かした地域特産品目を設定し、安定生産並びに有利販売の取り組みにより、
産地の維持・活性化を図ります。

①生産面積

(単位:ha)

品目	実績		目標	
	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度
小豆	7.0	7.0	7.0	7.0
ダルマササゲ	0.6	0.8	0.8	0.8
一寸そら豆	1.0	0.8	1.0	1.1
シュンギク	0.4	0.4	0.4	0.4
ミニトマト	0.5	0.5	0.6	0.6
シャクヤク	0.9	1.0	1.0	1.1
フォックスフェイス	0.2	0.2	0.2	0.2
花トウガラシ	0.1	0.1	0.1	0.1



②販売品取扱高

(単位：千円)

品 目	目 標			
	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度
小 豆	1,097	2,000	2,000	2,000
ダルマササゲ	555	800	800	800
一寸そら豆	4,687	4,100	4,800	5,300
シュンギク	9,118	10,200	10,300	10,300
ミニトマト	18,165	18,200	18,800	19,400
シャクヤク	3,434	3,600	3,700	3,800
フォックスフェイス	2,454	2,500	2,500	2,500
花トウガラシ	928	1,000	1,000	1,100

8) 契約・加工用品目振興の目標

全農と連携のもとで契約栽培の推進に取り組み、安定した生産・供給の普及活動や技術指導を図ることにより、信頼され継続する産地づくりを目指します。

①販売品取扱高

(単位：千円)

品 目	目 標			
	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度
ナス	4,552	4,600	4,700	4,900
ハクサイ	528	600	600	600
タマネギ	173	200	200	200

9) 農畜産物直売所振興の目標

管内を越えた直売所間連携・交流により、双方のエリア外の季節に応じた地域特産物の豊富な品揃えを容易にする運営体制の拡充などに取り組み、店舗の活性化と魅力アップによる出荷者会員の増加と生産拡大につなげます。

①出荷者数

(単位：人)

店 舗 名	目 標			
	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度
高粱グリーンセンター	359	365	370	375
神 楽 の 里	283	290	292	295
か よ う 青 空 市	325	330	335	340
コ ス モ ス の 里	298	300	305	310
合 計	1,265	1,285	1,302	1,320

②販売品取扱高

(単位：千円)

店 舗 名	目 標			
	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度
高粱グリーンセンター	107,104	108,000	109,000	110,000
神 楽 の 里	70,134	72,000	73,000	74,000
か よ う 青 空 市	87,172	88,000	90,000	92,000
コ ス モ ス の 里	28,414	30,000	31,000	32,000
合 計	292,824	298,000	303,000	308,000

2. 担い手及び新規就農者の育成支援

地域の担い手農家や生産者組織並びに JA と関係機関が一体となり、新規就農者が安心して就農できる受け入れ体制の強化に取り組みます。また、担い手農家の確保育成や集落営農の組織化・法人化への支援を行うなど、産地の維持発展に努めます。

① 認定農業者数の目標

(単位：経営体)

市 町 名	実 績	目 標		
	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度
高 梁 市	175	178	181	184
真 庭 市	33	34	35	36
吉 備 中 央 町	79	81	83	85
合 計	287	293	299	305

② - (1) 集落営農組合数の目標

(単位：経営体)

市 町 名	実 績	目 標		
	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度
高 梁 市	19	21	21	21
真 庭 市	10	11	11	11
吉 備 中 央 町	14	15	15	15
合 計	43	47	47	47

② - (2) 集落営農法人数の目標

(単位：経営体)

市 町 名	実 績	目 標		
	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度
高 梁 市	5	5	5	5
真 庭 市	4	4	4	4
吉 備 中 央 町	4	4	4	4
合 計	13	13	13	13

③ 新規就農者数の目標 (単年度)

(単位：経営体)

市 町 名	実 績	目 標		
	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度
高 梁 市	7	5	5	5
真 庭 市	1	2	2	2
吉 備 中 央 町	-	2	2	2
合 計	8	9	9	9

新見統括本部

1. 生産振興方針

管内では農業従事者の高齢化、担い手農家不足に伴う耕作放棄地の増加、鳥獣被害等が進行しており引き続いて、地域農家をはじめ関係機関と連携し課題克服に向けた取り組み策を検討していきます。

また、地域を代表する農畜産物生産の「環境調和型農業*²」へのステップアップに向けた技術改善と販売強化に取り組むとともに農業に従事する魅力を発信し、新規就農者確保による産地維持と農業の活性化を目指します。

1) 販売品取扱高の目標

新見ファンのさらなる獲得に向け、各生産者組織と連携し農畜産物の魅力発信に努め有利販売につなげていきます。

(単位：千円)

品 目	実 績		目 標	
	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度
米	963,859	970,000	973,500	975,000
豆・雑穀	28,278	28,500	28,500	28,500
野菜	190,328	195,000	195,000	196,000
果実	1,407,762	1,605,000	1,610,000	1,615,000
花き・花木	55,365	78,650	80,000	82,000
直売所	172,710	175,000	177,000	178,000
畜産	917,456	920,000	925,500	933,000
その他	18,696	11,650	11,650	11,650
合計	3,754,455	3,983,800	4,001,150	4,019,150



2) 米集荷の目標

清流、地力などの立地を活かしたうまい米づくりにより、地域ブランド「にいみ源流米」の産地維持に努めていきます。また、新品種「にじのきらめき」の栽培技術確立に向けた取り組みを関係機関と連携し推進していきます。

(単位：俵)

品 種 ・ 銘 柄		目 標			
		令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度
主食用米	コシヒカリ	22,292.0	28,000.0	27,000.0	25,000.0
	あきたこまち	8,562.0	10,000.0	9,000.0	8,000.0
	きぬむすめ	6,001.5	6,600.0	6,500.0	6,500.0
	にじのきらめき	1,378.0	5,000.0	7,000.0	10,000.0
	もち米	3,302.5	3,400.0	3,500.0	3,500.0
	酒造好適米	139.5	175.0	175.0	175.0
	その他主食用米	592.5	700.0	700.0	700.0
水田活用米穀		2,659.2	1,125.0	1,125.0	1,125.0
合 計		44,927.2	55,000.0	55,000.0	55,000.0
(うち里海米)		278.0	400.0	700.0	1,100.0

※水田活用米穀とは「飼料用米」「米粉用米」「加工用米」「新市場開拓用米」を指す。



3) 園芸重点品目（野菜・花き）振興の目標

夏秋トマト・リンドウの生産振興に向けて、「適地適作」を観点とする作付けの推進及び栽培技術の高位平準化によるブランド力強化に努めます。同時に、ブランド力を活かした有利販売活動による農家所得の向上による、生産意欲の高揚に取り組みます。

併せて、軽量野菜品目アスパラガスの作付けを推進します。

①生産面積

(単位:ha)

品目	実績	目標			
		令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度
野菜	トマト	4.3	5.0	5.0	5.0
	アスパラガス	-	0.2	0.3	0.3
花き	リンドウ	4.0	5.0	5.0	5.2

②販売品取扱高

(単位:千円)

品目	実績	目標			
		令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度
野菜	トマト	138,443	165,000	165,000	165,000
	アスパラガス	-	1,000	1,500	1,500
花き	リンドウ	53,337	98,000	100,000	100,500



4) 園芸重点品目（果実）振興の目標

ブドウ・モモの振興にあたり、優良農地の確保や今日まで培ってきたブランドに加え「よりよい営農活動*3」の推進による「安全・安心」なブランド力強化を図り、栽培面積の維持・拡大に取り組みます。特にブドウは、全国的に黒系品種が減少するなかであって、ピオーネの面積維持に向けてさらなる栽培技術の高位平準化を図り、高品質生産による有利販売並びに所得向上に取り組みます。

①生産面積

(単位:ha)

品 目		実 績			
		令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度
モ	モ	20.0	20.0	20.0	20.0
ブ	ド ウ	94.0	101.3	107.3	109.3
ブドウ 品 種 別	ピ オ ー ネ	70.0	75.0	80.0	82.0
	シャインマスカット	18.2	20.0	21.0	21.0
	瀬戸ジャイアンツ	1.0	1.5	1.5	1.5
	オーロラブラック	1.2	1.2	1.2	1.2
	紫 苑	0.1	0.1	0.1	0.1
	そ の 他 ブ ド ウ	3.5	3.5	3.5	3.5

②販売品取扱高

(単位:千円)

品 目		実 績			
		令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度
モ	モ	67,247	74,000	74,000	74,000
ブ	ド ウ	1,340,476	1,530,000	1,535,000	1,540,000
ブドウ 品 種 別	ピ オ ー ネ	1,005,714	1,170,000	1,175,000	1,180,000
	シャインマスカット	281,944	300,000	300,000	300,000
	瀬戸ジャイアンツ	11,383	12,000	12,000	12,000
	オーロラブラック	10,105	12,000	12,000	12,000
	紫 苑	676	1,000	1,000	1,000
	そ の 他 ブ ド ウ	30,654	35,000	35,000	35,000



5) 畜産振興の目標

素牛は優良で安定的な生産に取り組み、肉用牛はブランド力の強い「千屋牛」の生産及び産地維持を図ります。

①生産頭数

(単位：頭)

畜種	実績		目標	
	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度
肉牛	727	730	734	740
子牛	164	165	165	165

②販売品取扱高

(単位：千円)

畜種	実績		目標	
	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度
肉牛	825,863	826,000	830,500	838,000
子牛	77,924	80,000	80,000	80,000
その他畜産	13,669	14,000	15,000	15,000

6) 地域特産品目振興の目標

地域の特産品目ダイコンについて、作付け推進による生産の維持に努めます。

①生産面積

(単位：ha)

品目	実績		目標	
	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度
ダイコン	7.2	7.2	7.2	7.2

②販売品取扱高

(単位：千円)

品目	実績		目標	
	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度
ダイコン	38,013	39,000	39,000	39,000



7) 農畜産物直売所振興の目標

出荷者会員数の増加を推進するとともに、もう一度寄りたくなるリピーターを増やす店舗づくりと、地域農業の魅力を発信する活動に取り組みます。

① 出荷者数

(単位：人)

店 舗 名	実 績		目 標	
	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度
ふ れ あ い 市 場	569	580	590	600

② 販売品取扱高

(単位：千円)

店 舗 名	実 績		目 標	
	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度
あ し ん 広 場	133,487	135,000	136,000	136,000
A コープあしん店ふれあい市場	39,223	40,000	41,000	42,000
合 計	172,710	175,000	177,000	178,000

2. 担い手及び新規就農者育成支援

管内における「農業の持続性確保」には、担い手農家及び新規就農者の確保が喫緊の課題であり、関係機関と密に連携し新規就農者の発掘を図るとともに、就農オリエンテーションなど育成支援活動に重点を置いた取り組みを展開します。

① 認定農業者数の目標

(単位：経営体)

市 町 名	実 績		目 標	
	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度
新 見 市	168	170	172	175

② - (1) 集落営農組合数の目標

(単位：経営体)

市 町 名	実 績		目 標	
	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度
新 見 市	24	23	23	23

② - (2) 集落営農法人数の目標

(単位：経営体)

市 町 名	実 績		目 標	
	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度
新 見 市	5	7	7	7

③ 新規就農者数の目標 (単年度)

(単位：経営体)

市 町 名	実 績		目 標	
	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度
新 見 市	8	8	8	8

真庭統括本部

1. 生産振興方針

地域農業は従事者の高齢化に伴う担い手農家の減少や耕作放棄地の増加など、生産構造の弱体化がすすむ状況にあるなか、「持続可能な農業」の実現に向けて「環境調和型農業*2」への段階的な取り組みを推進し、安全・安心な農畜産物の生産拡大並びに新規就農者・新規栽培農家の円滑な受入れなどを図る態勢を構築し、安定的に供給できる産地づくりを展開します。また、実需者ニーズに対応した「農業生産の拡大」はもとより多様な販路の開拓や契約取引の拡充による農畜産物の有利販売に取り組み、「農業所得の増大」を目指します。

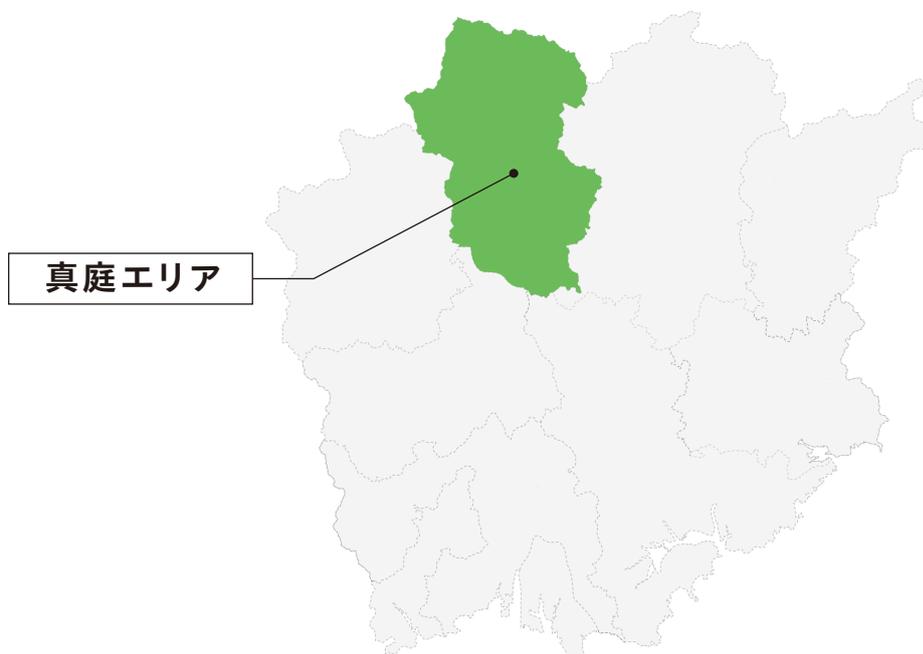
さらには、関係機関との連携により農業経営への支援や担い手農家の確保・育成、販売力強化など、農家組合員の多様なニーズに対応できるサポート体制の強化に努めます。

1) 販売品取扱高の目標

重点品目を中心に産地の特色を活かした生産の普及拡大に取り組みとともに、集出荷共同施設を核とした集荷量の確保、品質の維持向上など一層のブランド力と販売力の強化を図る活動を基軸とし、目標達成を目指します。

(単位：千円)

品 目	実 績		目 標	
	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度
米	559,526	560,000	560,000	564,500
豆・雑穀	3,309	3,500	3,500	3,500
野菜	446,949	472,400	473,000	473,000
果実	144,552	154,000	155,000	156,000
花き・花木	40,133	43,500	44,000	44,000
直売所	111,546	120,000	125,000	127,000
畜産	361,769	389,250	387,000	387,500
その他	8,823	10,000	10,000	10,000
合計	1,676,607	1,752,650	1,757,500	1,765,500



2) 米集荷の目標

需要に対応した売れる米づくりとして「里海米」のさらなる生産の普及を図り、同時に実需者との関係及び連携強化の構築に努めるなど、継続的な生産拡大と有利販売に向けた取り組みによる集荷力アップを目指します。

(単位：俵)

品 種 ・ 銘 柄		実 績			
		令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度
主食用米	コシヒカリ	3,241.5	3,300.0	3,400.0	3,500.0
	あきたこまち	8,229.5	8,300.0	8,400.0	8,500.0
	きぬむすめ	5,883.5	6,000.0	6,200.0	6,400.0
	ヒノヒカリ	1,015.5	1,020.0	1,100.0	1,200.0
	にじのきらめき	93.0	200.0	400.0	600.0
	もち米	2,599.5	2,620.0	2,700.0	2,800.0
	その他主食用米	3,132.5	3,290.0	3,310.0	3,410.0
水田活用米穀		296.7	340.0	350.0	350.0
合 計		24,491.7	25,070.0	25,860.0	26,760.0
(うち里海米)		12,686.5	13,000.0	14,000.0	15,000.0

※水田活用米穀とは「飼料用米」「米粉用米」「加工用米」「新市場開拓用米」を指す。

3) 麦・大豆集荷の目標

(単位：t)

品 目		実 績			
		令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度
白 大 豆		0.2	0.2	0.2	0.2
黒 大 豆		0.1	0.1	0.1	0.1

4) 園芸重点品目（野菜・花き）振興の目標

生産者組織を中心に、新規栽培農家の確保・育成や既存栽培農家の増反による生産規模の拡大と生産技術向上による生産量の増大を図り、選果施設を利用した共同販売の強みを活かした一層のブランド化及び販売力強化に取り組みます。

①生産面積

(単位：ha)

品 目		実 績			
		令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度
野 菜	ト マ ト	2.8	2.8	3.0	3.5
	キ ュ ウ リ	0.5	0.5	0.5	0.5
	ナ ス	1.8	1.9	2.0	2.0
	アスパラガス	0.1	0.1	0.1	0.1
	白 ネ ギ	13.6	14.6	15.3	16.0
花 き	リ ン ド ウ	0.8	0.8	1.0	1.0

②販売品取扱高

(単位：千円)

品 目		実 績			
		令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度
野 菜	ト マ ト	90,848	91,000	93,000	93,000
	キ ュ ウ リ	8,103	8,200	8,200	8,200
	ナ ス	49,620	50,000	52,000	52,000
	アスパラガス	34	35	40	40
	白 ネ ギ	80,850	82,000	84,000	85,000
花 き	リ ン ド ウ	5,623	5,500	6,000	6,000

5) 園芸重点品目（果実）振興の目標

地域特性を活かしたブランド力強化と実需者ニーズに対応した共同選果の強みを発揮する生産意欲の高揚を図るとともに、出荷品質の高位平準化による販売力強化を目指します。また、補助事業の活用など、新規栽培農家や栽培規模拡大希望農家へのサポート体制の充実を図り、より一層の産地振興に努めます。

①生産面積

(単位：ha)

品 目		実 績			
		令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度
ブ ド ウ		28.7	29.3	29.8	29.8
ブドウ 品種別	ピ オ ー ネ	19.1	19.2	19.5	19.5
	シャインマスカット	6.2	6.5	6.6	6.6
	瀬戸ジャイアンツ	0.9	0.9	0.9	0.9
	オーロラブラック	0.6	0.6	0.7	0.7
	紫 苑	0.1	0.1	0.1	0.1
	その 他 ブ ド ウ	1.8	2.0	2.0	2.0

②販売品取扱高

(単位：千円)

品 目		実 績			
		令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度
ブ ド ウ		131,968	136,900	140,400	143,100
ブドウ 品種別	ピ オ ー ネ	61,276	65,000	66,000	68,000
	シャインマスカット	59,264	60,000	62,000	62,000
	瀬戸ジャイアンツ	3,193	3,300	3,300	3,500
	オーロラブラック	4,911	5,000	5,500	6,000
	紫 苑	578	600	600	600
	その 他 ブ ド ウ	2,746	3,000	3,000	3,000



6) 畜産振興の目標

関係機関と連携して、ET 子牛の生産基盤の維持に努めるとともに、酪農家から転換した和牛繁殖農家の優良子牛安定生産をサポートします。

肉用牛は、高品質な和牛肉の生産維持に努めます。

①生産頭数

(単位：頭)

畜種	実績		目標	
	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度
肉牛	72	75	80	80
子牛	616	620	630	630

②販売品取扱高

(単位：千円)

畜種	実績		目標	
	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度
肉牛	45,989	49,500	50,000	50,000
子牛	304,535	332,750	330,000	330,000
その他畜産	11,245	7,000	7,000	7,500

7) 地域特産品目振興の目標

地域に根ざした農畜産物の振興に向けて、実需者との結びつき強化や新たな愛好者を発掘する PR 活動の展開に取り組むとともに、品目によっては実効性のある契約栽培の取り組みを推進するなど、生産基盤の拡大を目指します。

①生産面積

(単位：ha)

品目	実績		目標	
	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度
ミニトマト	1.7	1.8	1.8	1.8
ダイコン	11.2	12.0	12.0	12.0
キャベツ	10.0	11.0	12.0	13.0
スイートコーン	3.0	3.5	4.0	5.0
ヤマノイモ(銀沫)	10.0	11.0	11.0	11.0
ホウレンソウ	3.0	3.5	4.0	5.0
シュンギク	0.3	0.3	0.3	0.3
白小豆	1.8	2.0	2.0	2.0
ササゲ	1.2	2.0	2.0	2.0
ソリダゴ	0.5	0.5	0.6	0.6
クレマチス	0.3	0.3	0.3	0.3
コギク	1.2	1.3	1.4	1.5



②販売品取扱高

(単位：千円)

品 目	実 績			
	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度
ミニトマト	98,404	100,000	100,000	100,000
ダイコン	50,583	60,000	60,000	60,000
キャベツ	22,388	30,000	35,000	40,000
スイートコーン	5,979	7,000	8,000	10,000
ヤマノイモ(銀沫)	15,895	16,000	16,000	16,000
ホウレンソウ	5,541	6,500	7,500	9,500
シュンギク	2,704	2,800	2,900	3,000
白小豆	258	300	300	300
ササゲ	1,980	2,000	2,000	2,000
ソリダゴ	12,526	13,000	15,000	15,000
クレマチス	4,781	4,800	4,900	5,000
コギク	3,189	3,300	3,500	3,700

8) 契約・加工用品目振興の目標

全農と連携し、経営の安定化や実効性が見込める加工業務用契約野菜の栽培推進に取り組めます。

①販売品取扱高

(単位：千円)

品 目	実 績			
	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度
キャベツ	16,835	21,600	26,800	32,000

9) 農畜産物直売所振興の目標

直売所出荷者会員の増員と地域ネットワーク活用による季節商品の安定供給に努めるなど、地域農畜産物の生産拡大に取り組めます。また、エリアを越えた産地間連携による取扱品目の充実を図り、直売所の活性化と運営基盤強化に努めます。

①出荷者数

(単位：人)

店 舗 名	実 績			
	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度
きらめきの里	448	450	452	455

②販売品取扱高

(単位：千円)

店 舗 名	実 績			
	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度
きらめきの里	111,546	120,000	125,000	127,000

2. 担い手及び新規就農者の育成支援

地域農業の振興と維持拡大を図るため、関係機関と連携して、中核的担い手農家及び新規就農者を確保・育成する取り組みをすすめます。

① 認定農業者数の目標

(単位：経営体)

市 町 名	実 績	目 標		
	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度
真 庭 市	166	168	170	172
新 庄 村	14	15	15	15
合 計	180	183	185	187

② - (1) 集落営農組合数の目標

(単位：経営体)

市 町 名	実 績	目 標		
	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度
真 庭 市	31	31	31	32
新 庄 村	4	4	5	5
合 計	35	35	36	37

② - (2) 集落営農法人数の目標

(単位：経営体)

市 町 名	実 績	目 標		
	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度
真 庭 市	4	5	5	6
新 庄 村	4	4	4	4
合 計	8	9	9	10

③ 新規就農者数の目標 (単年度)

(単位：経営体)

市 町 名	実 績	目 標		
	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度
真 庭 市	12	12	12	12
新 庄 村	-	1	1	1
合 計	12	13	13	13



津山統括本部

1. 生産振興方針

中山間地域を多く有している当管内は、農地の荒廃と農業従事者の不足及び高齢化など、農業生産基盤の弱体化が進行しておりこの課題に対応するべく、担い手農家の「農業所得の増大」を図るため地域の実情に応じた持続可能な農業・農村の確立を目指す「環境調和型農業*2」の段階的取り組みを視野に、生産振興に取り組みます。

また、大規模個人農家・農業法人などには担い手担当者の訪問活動による多様なニーズの把握や部門間連携による資金相談・提案活動に取り組むとともに、多様な担い手農家に対する育成支援を行います。

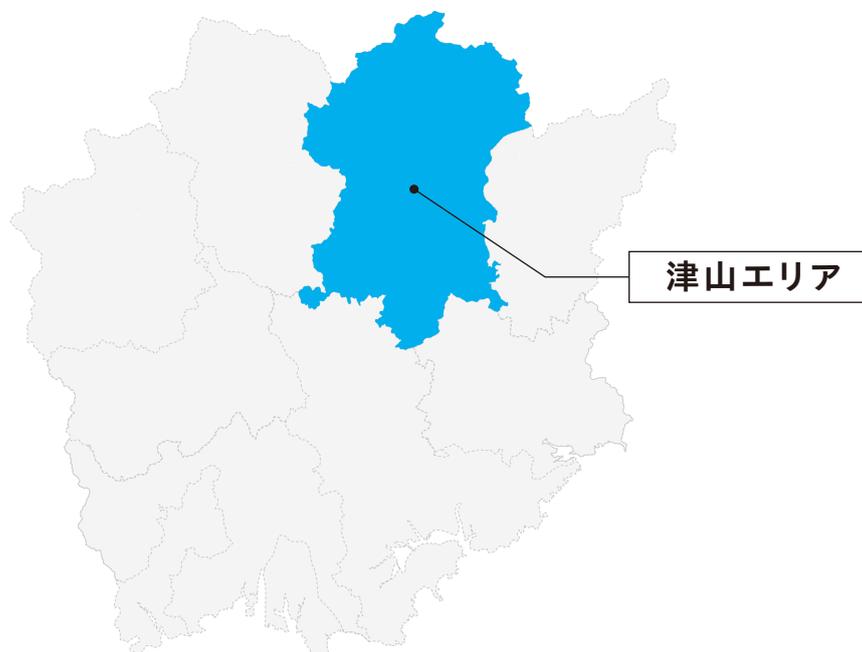
各農家に対して「よりよい営農活動*3」実践の働きかけを行い、より安全で安心な生産出荷体制の構築を図ります。

1) 販売品取扱高の目標

「農業所得の増大」に向けた販路の開拓と集約化に取り組むなど、基幹となる米、ブドウを中心とする有利販売により、目標達成に努めます。

(単位：千円)

品目	実績		目標	
	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度
米	1,259,530	1,260,000	1,260,000	1,260,000
麦・豆・雑穀	52,011	28,000	28,000	28,000
野菜	344,964	345,000	350,000	355,000
果実	1,229,609	1,289,273	1,373,100	1,409,480
花き・花木	33,936	34,000	34,400	36,000
直売所	272,262	278,542	283,000	287,000
畜産	558,486	558,000	563,000	568,000
その他	54,797	55,000	55,000	55,000
合計	3,805,595	3,847,815	3,946,500	3,998,480



2) 米集荷の目標

「コシヒカリ」「あきたこまち」「きぬむすめ」を中心とした作付け推進を行い、ロットの拡大による共同販売の強化を目指します。

(単位：俵)

品 種 ・ 銘 柄		実 績		目 標	
		令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度
主食用米	コシヒカリ	8,045.5	9,000.0	9,000.0	9,000.0
	あきたこまち	20,592.5	24,000.0	24,000.0	24,000.0
	きぬむすめ	19,035.5	24,000.0	24,000.0	24,000.0
	にじのきらめき	1,879.0	5,000.0	5,000.0	5,000.0
	もち米	859.5	900.0	900.0	900.0
	酒造好適米	70.0	70.0	70.0	70.0
	その他主食用米	940.5	780.0	780.0	780.0
水田活用米穀		15,274.2	2,950.0	2,950.0	2,950.0
合 計		66,696.7	66,700.0	66,700.0	66,700.0
(うち里海米)		3,227.5	3,300.0	3,300.0	3,300.0

※水田活用米穀とは「飼料用米」「米粉用米」「加工用米」「新市場開拓用米」を指す。

3) 麦・大豆集荷の目標

小麦については、実需者が求める品質・数量の確保に向けて、需要に応じた作付け推進並びに安定生産に取り組みます。管内実需者、一般消費者へは引き続いて「つやまプライベートブランド（津山のほほえみ）」の販売を行い、地産地消の普及拡大に取り組みます。

(単位：t)

品 目		実 績		目 標	
		令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度
小	麦	472.6	370.0	375.0	375.0
白	大豆	44.9	50.0	50.0	50.0
黒	大豆	8.3	8.3	9.0	9.0



4) 園芸重点品目（野菜・花き）振興の目標

野菜品目として市場ニーズの高いアスパラガス・キュウリについて、補助事業導入による面積拡大に取り組みます。また、広報誌を活用するなど新規生産農家の掘り起こしに努め、アスパラガス・キュウリ・トマト・ナスのさらなる生産拡大を推進します。

①生産面積

(単位:ha)

品 目		実 績			
		令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度
野 菜	ト マ ト	2.2	2.2	2.2	2.2
	キ ュ ウ リ	7.0	7.3	7.6	8.0
	ナ ス	0.8	0.8	0.8	0.8
	アスパラガス	6.3	6.3	6.3	6.3
	白 ネ ギ	2.0	3.0	3.0	3.0
花 き	リ ン ド ウ	2.0	2.0	2.0	2.0

②販売品取扱高

(単位:千円)

品 目		実 績			
		令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度
野 菜	ト マ ト	14,064	16,000	16,000	16,000
	キ ュ ウ リ	227,491	237,000	247,000	257,000
	ナ ス	10,211	11,000	11,000	11,000
	アスパラガス	33,791	34,000	34,000	34,000
	白 ネ ギ	12,215	18,000	18,000	18,000
花 き	リ ン ド ウ	8,978	9,000	9,000	9,000



5) 園芸重点品目（果実）振興の目標

津山地域の「顔」として産地化しているブドウについて、さらなる生産振興に取り組み、ピオーネ・シャインマスカットについて補助事業を活用した作付けによる増反と施設化を推進し、出荷ロットの拡大と長期安定出荷を図ります。また、大手市場をターゲットに情報交換や交流会並びに訪問活動等による緊密な連携を図り、ニーズに基づく適確な産地対応に取り組み、主産地としての地位の確保と一層の「ブランド化」を目指します。

①生産面積

(単位:ha)

品 目		実 績		目 標	
		令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度
モ	モ	11.0	11.0	11.0	11.0
ブ	ド	126.0	128.0	130.0	132.0
ブドウ 品種別	ピ オ ー ネ	80.0	81.0	81.5	82.0
	シャインマスカット	37.0	38.0	39.5	41.0
	瀬戸ジャイアンツ	2.0	2.0	2.0	2.0
	オーロラブラック	4.0	4.0	4.0	4.0
	紫 苑	1.0	1.0	1.0	1.0
	そ の 他 ブ ド ウ	2.0	2.0	2.0	2.0

②販売品取扱高

(単位:千円)

品 目		実 績		目 標	
		令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度
モ	モ	3,669	3,700	3,700	3,700
ブ	ド	1,160,563	1,220,000	1,300,000	1,350,000
ブドウ 品種別	ピ オ ー ネ	437,231	456,000	468,000	488,000
	シャインマスカット	590,103	630,000	698,000	728,000
	瀬戸ジャイアンツ	23,626	24,000	24,000	24,000
	オーロラブラック	39,409	40,000	40,000	40,000
	紫 苑	24,591	25,000	25,000	25,000
	そ の 他 ブ ド ウ	45,602	45,000	45,000	45,000



6) 畜産振興の目標

肉用牛は地域ブランド牛の産地維持に努め、素牛は優良子牛の安定生産を図ります。

①生産頭数

(単位：頭)

畜種	実績		目標	
	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度
肉牛	164	164	165	166
子牛	709	720	722	730
肉豚	48	-	-	-

②販売品取扱高

(単位：千円)

畜種	実績		目標	
	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度
肉牛	161,560	165,000	167,000	168,000
子牛	334,494	340,000	341,000	345,000
肉豚	2,286	-	-	-
その他畜産	60,145	53,000	55,000	55,000

7) 地域特産品目振興の目標

地域の特色を活かした品目推進と販売数量を維持拡大する活動に努めます。さらには合併メリットとして、地域に根ざした特色有る農畜産物のなかから統括本部間での生産・販売の連携を模索し、有効な品目については広域振興につなげます。

①生産面積

(単位：ha)

品目	実績		目標	
	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度
ブロッコリー	8.0	8.5	9.0	9.5
シヨウガ	1.6	0.6	0.7	0.8
カキ	20.0	20.0	20.0	20.0
ナシ	3.0	3.0	3.0	3.0
ユズ	9.0	9.0	9.0	9.0

②販売品取扱高

(単位：千円)

品目	実績		目標	
	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度
ブロッコリー	11,141	12,000	13,000	14,000
シヨウガ	13,635	3,600	4,200	4,800
カキ	21,230	22,000	22,000	22,000
ナシ	6,972	7,000	7,000	7,000
ユズ	12,266	13,000	13,000	13,000

8) 農畜産物直売所振興の目標

農畜産物直売所には季節に応じた多品目の品揃えが消費者から求められており、出荷者会員の増員と併せて魅力ある多岐にわたる品目の生産拡大に取り組みます。また、晴ればれ直行便による「旬感広場」への出荷量増大を図るなど、販売チャネルの拡充に取り組みます。

① 出荷者数

(単位：人)

店 舗 名	実 績		目 標	
	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度
産地直売所「燦燦つやま」	277	300	303	305
津山市地産地消センター「サンヒルズ」	291	295	300	305
ファーマーズマーケット「サンサンくめなん」	179	182	185	187
みち停「あさひ」	80	82	84	86
合 計	827	859	872	883

② 販売品取扱高

(単位：千円)

店 舗 名	実 績		目 標	
	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度
産地直売所「燦燦つやま」	80,825	82,000	84,000	85,000
津山市地産地消センター「サンヒルズ」	104,125	108,000	109,000	110,000
ファーマーズマーケット「サンサンくめなん」	62,715	63,542	64,000	65,000
みち停「あさひ」	24,597	25,000	26,000	27,000
合 計	272,262	278,542	283,000	287,000



2. 担い手及び新規就農者の育成支援

農畜産物の生産維持拡大を図るため関係機関と連携し、中核的かつ多様な担い手農家及び新規就農者の確保育成と集落営農の組織化・法人化・連携強化への支援を行うなど、産地の維持発展に努めます

① 認定農業者数の目標

(単位：経営体)

市 町 名	実 績	目 標		
	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度
津 山 市	158	165	165	165
鏡 野 町	76	80	80	80
久 米 南 町	48	50	50	50
美 咲 町	58	60	60	60
合 計	340	355	355	355

② - (1) 集落営農組合数の目標

(単位：経営体)

市 町 名	実 績	目 標		
	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度
津 山 市	19	19	19	19
鏡 野 町	6	6	6	6
久 米 南 町	8	8	8	8
美 咲 町	8	8	8	8
合 計	41	41	41	41

② - (2) 集落営農法人数の目標

(単位：経営体)

市 町 名	実 績	目 標		
	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度
津 山 市	17	17	17	17
鏡 野 町	7	7	7	7
久 米 南 町	3	3	3	3
美 咲 町	3	3	3	3
合 計	30	30	30	30

③ 新規就農者数の目標 (単年度)

(単位：経営体)

市 町 名	実 績	目 標		
	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度
津 山 市	12	6	6	6
鏡 野 町	2	1	1	1
久 米 南 町	4	5	5	5
美 咲 町	1	1	1	1
合 計	19	13	13	13

勝英統括本部

1. 生産振興方針

地域農業の課題として、少子高齢化による農業従事者の減少が深刻化してきているなか、新規就農者の受け入れや集落営農の組織化・法人化、農業管理支援、農作業支援体制の整備、さらに次世代農業を担う担い手農家の育成確保と担い手経営体の高度なニーズに対応する営農指導体制の強化などに継続して取り組み、「持続可能な農業」の生産基盤づくりに努めます。

また、未来を志向した農業生産構造への再編、農業生産の維持・拡大、SDGsの取り組み、農業所得の安定と増大などを目指して、「環境調和型農業*2」への段階的取り組みを推進します。

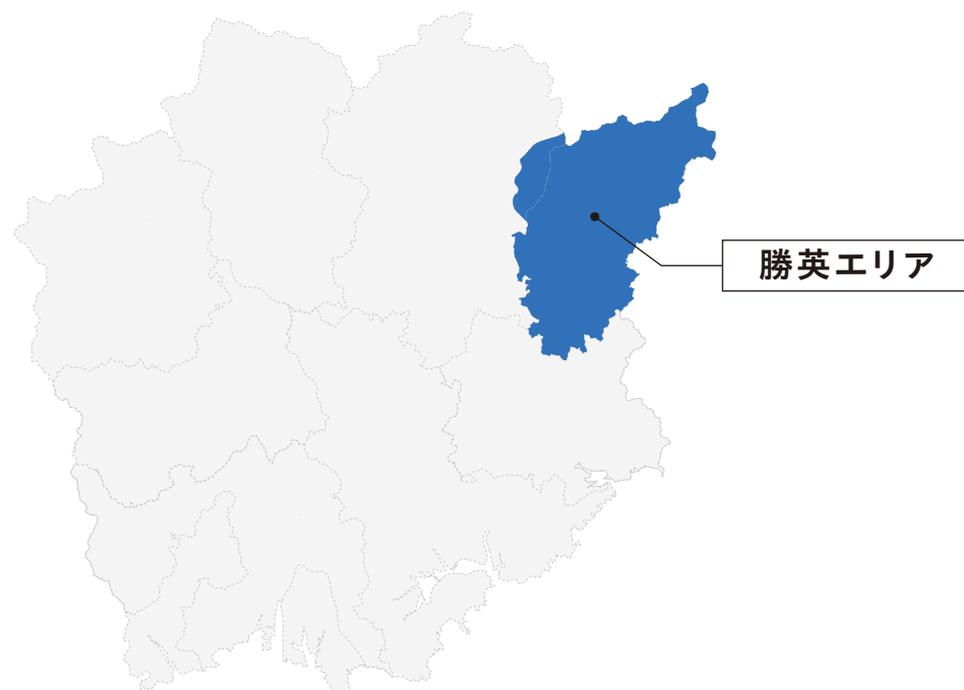
1) 販売品取扱高の目標

生産面では地域の生産者組織並びに共同の力を発揮するブランド品目の維持強化に取り組むとともに、生産意欲の高揚を図ります。また、販売面においては、ブランド品目の消費地へ向けたPR活動の戦略を「産地の顔の見える化」とし、生産農家の積極的参加を呼びかけます。

この生産と販売が一貫したブランド力向上対策の展開並びに販売促進活動の推進強化の取り組みにより、目標達成を目指します。

(単位：千円)

品 目	実 績		目 標	
	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度
米	1,333,360	1,338,700	1,340,500	1,340,500
麦・豆・雑穀	97,243	122,800	123,000	123,000
野 菜	101,876	110,160	125,000	130,000
果 実	138,887	150,900	160,000	165,000
花 き・花 木	2,065	2,500	2,500	2,500
畜 産	1,586,990	1,600,000	1,600,000	1,600,000
そ の 他	9,435	9,800	9,800	9,800
合 計	3,269,856	3,334,860	3,360,800	3,370,800



2) 米集荷の目標

地域の特色を生かした米の販売ロット拡大による有利販売を目指し、推奨品種「コシヒカリ」「あきたこまち」「きぬむすめ」への集約に取り組みます。また、気象や消費者ニーズの変化をふまえて、新たな品種「にじのきらめき」の栽培推進に取り組みます。

地域循環環境保全型事業としての「里海米」にマッチングさせた、勝英ブランドの生産拡大への誘導による「農業所得の増大」を図ります。

(単位：俵)

品 種 ・ 銘 柄		実 績		目 標	
		令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度
主食用米	コシヒカリ	18,011.5	20,000.0	20,000.0	20,000.0
	あきたこまち	18,058.5	17,500.0	17,000.0	16,500.0
	きぬむすめ	9,148.5	10,000.0	9,500.0	9,000.0
	ヒノヒカリ	63.5	-	-	-
	朝 日	3.0	-	-	-
	にじのきらめき	6,087.0	20,000.0	23,000.0	26,000.0
	も ち 米	1,055.5	1,000.0	1,000.0	1,000.0
	酒造好適米	3,782.0	3,800.0	3,800.0	3,800.0
	その他主食用米	1,555.5	1,200.0	1,200.0	1,200.0
水田活用米穀		13,139.1	6,900.0	5,400.0	3,900.0
合 計		70,904.1	80,400.0	80,900.0	81,400.0
(うち里海米)		6,089.0	8,000.0	8,000.0	8,000.0

※水田活用米穀とは「飼料用米」「米粉用米」「加工用米」「新市場開拓用米」を指す。

3) 麦・大豆集荷の目標

水田のフル活用に重要かつ食料自給率・自給力の向上に資する作物として、経営所得安定対策を活用し、需給に応じた作付け推進を図ります。

特に黒大豆は「作州黒」ブランドを活かし、地域と一体となって、さらなる外延的拡大を目指した生産振興に取り組みます。

(単位：t)

品 目		実 績		目 標	
		令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度
大	麦	21.0	18.0	18.0	18.0
小	麦	3.4	3.0	3.0	3.0
裸	麦	16.5	14.0	14.0	14.0
白	大豆	3.6	3.0	3.0	3.0
黒	大豆	65.0	100.0	120.0	150.0



4) 園芸重点品目（野菜・花き）振興の目標

アスパラガス・白ねぎを主体に、新品種の導入並びに品質向上に資するための実証試験及び、実体験による研修を通して担当者のスキルアップを図る各種展示圃の設置などに取り組み、地域全体の生産意欲高揚と「園芸重点振興品目」の生産振興につなげます。

①生産面積

(単位:ha)

品 目		目 標			
		令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度
野 菜	キュウリ	1.0	1.1	1.2	1.3
	ナス	0.1	0.1	0.1	0.1
	アスパラガス	5.4	5.6	5.8	6.0
	白ネギ	5.0	5.5	6.0	6.5
花 き	リンドウ	0.2	0.2	0.2	0.2

②販売品取扱高

(単位:千円)

品 目		目 標			
		令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度
野 菜	キュウリ	18,298	20,000	22,000	24,000
	ナス	16	50	50	50
	アスパラガス	33,383	45,000	50,000	55,000
	白ネギ	10,599	13,000	15,000	17,000
花 き	リンドウ	1,601	2,000	2,000	2,000



5) 園芸重点品目（果実）振興の目標

「園芸重点振興品目」に位置づけられているモモ・ブドウについて、品種の特性や消費者ニーズをふまえて、地域の特色を活かした生産振興に取り組みます。

①生産面積

(単位:ha)

品 目		実 績			
		令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度
モ モ		18.5	18.5	18.6	18.7
ブ ド ウ		24.3	25.1	25.4	25.9
ブドウ 品種別	ピ オ ー ネ	10.0	10.3	10.4	10.5
	シャインマスカット	9.0	9.3	9.3	9.4
	瀬戸ジャイアンツ	1.0	1.0	1.0	1.0
	オーロラブラック	2.3	2.4	2.5	2.6
	紫 苑	0.5	0.5	0.5	0.5
	そ の 他 ブ ド ウ	1.5	1.6	1.7	1.9

②販売品取扱高

(単位:千円)

品 目		実 績			
		令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度
モ モ		30,544	33,000	35,000	36,000
ブ ド ウ		98,943	106,600	111,800	115,500
ブドウ 品種別	ピ オ ー ネ	27,025	30,000	33,000	35,000
	シャインマスカット	61,412	65,000	66,000	67,000
	瀬戸ジャイアンツ	2,426	2,500	2,500	2,500
	オーロラブラック	3,041	3,100	3,800	4,000
	そ の 他 ブ ド ウ	5,039	6,000	6,500	7,000

6) 畜産振興の目標

肉用牛は、地域ブランド「奈義ビーフ」の産地維持に向けて生産農家と一体となり消費者に見えるPR活動を展開し、知名度アップによる有利販売につなげます。

子牛については、小規模和牛繁殖農家の飼育規模の拡大推進により、「四ツ☆子牛」の安定生産に努めます。また、ET技術により優良系統牛の生産に努めます。

①生産頭数

(単位:頭)

畜 種		実 績			
		令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度
肉 牛		1,232	1,230	1,230	1,230
子 牛		392	400	400	400

②販売品取扱高

(単位:千円)

畜 種		実 績			
		令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度
肉 牛		1,162,980	1,200,000	1,200,000	1,200,000
子 牛		246,999	250,000	250,000	250,000
そ の 他 畜 産		177,011	150,000	150,000	150,000

7) 地域特産品目振興の目標

地域色を活かして特産的に生産される「黒大豆」を、地域特産品目「作州黒」と位置づけて生産振興を図ります。

同時に、「黒大豆」の枝豆としての取り組みについて、岡山県育成品種「岡山SYB1号」と従来の「作州黒」の組み合わせによるリレー出荷及び作業の分散化をすすめ、農業所得の増大を図ります。

①生産面積

(単位:ha)

品目	実績		目標	
	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度
黒大豆	400.0	400.0	400.0	400.0
黒枝豆	16.0	20.0	22.0	25.0
作州栗	10.0	11.0	12.0	13.0

②販売品取扱高

(単位:千円)

品目	実績		目標	
	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度
黒大豆	76,343	90,000	90,000	90,000
黒枝豆	22,779	25,000	26,000	28,000
作州栗	8,155	9,000	10,000	11,000

8) 契約・加工用品目振興の目標

業務用、加工用の契約栽培農産物は遊休地等を活用する取り組み品目として、取引価格の事前交渉により販売価格の安定化を図りつつ、作付け拡大を推進します。

①販売品取扱高

(単位:千円)

品目	実績		目標	
	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度
カブ	9,470	10,000	10,000	10,000



2. 担い手及び新規就農者の育成支援

農業の維持継続や担い手農家の規模拡大を支援する仕組みの検討をすすめ、耕作地の維持拡大を図ります。また、次代の地域農業の担い手確保に向けて、関係機関並びに生産者組織と連携して農業経営の確立を図るための制度活用や就農などの支援に取り組みます。

① 認定農業者数の目標

(単位：経営体)

市 町 名	実 績		目 標	
	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度
津 山 市	3	3	4	4
美 作 市	95	96	97	98
勝 央 町	66	67	68	69
奈 義 町	56	57	57	58
西 粟 倉 村	10	10	11	11
合 計	230	233	237	240

② - (1) 集落営農組合数の目標

(単位：経営体)

市 町 名	実 績		目 標	
	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度
津 山 市	9	9	9	9
美 作 市	14	15	15	15
勝 央 町	4	4	5	5
奈 義 町	1	1	1	1
西 粟 倉 村	1	1	1	1
合 計	29	30	31	31

② - (2) 集落営農法人数の目標

(単位：経営体)

市 町 名	実 績		目 標	
	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度
津 山 市	2	2	2	2
美 作 市	4	4	4	4
勝 央 町	1	1	1	1
奈 義 町	11	11	11	11
合 計	18	18	18	18

③ 新規就農者数の目標 (単年度)

(単位：経営体)

市 町 名	実 績		目 標	
	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度
津 山 市	-	1	1	1
美 作 市	4	5	5	5
勝 央 町	3	3	3	3
奈 義 町	1	2	2	2
西 粟 倉 村	-	1	1	1
合 計	8	12	12	12

用語解説

*1 「晴ればれ産地」

- 「晴れの国おかやま」の恵まれた環境の中で育む、当組合管内における地域農業・農村の将来を見据えた「在るべき産地」であり、農家組合員と共に明るく前向きに持続する農業を振興する姿。

*2 「環境調和型農業」

- 令和3年10月29日；第29回JA全国大会（用語解説*12）決議の推進事項かつ、令和6年3月7日；全中理事会決定の取り組み方針。
- 農業の持続性確保の観点から、組合員の便益（便利で有益）と食料安全保障を確保しつつ、環境保全型農業や有機農業なども含めて幅広く自然環境への負荷の緩和と適応を図る農業。「よりよい営農活動*3」と一体的に展開。

*3 「よりよい営農活動」

- 令和5年10月5日；全中理事会決定の取り組み方針。
- GAP手法（5分野；食品安全・環境保全・労働安全・人権保護・農場経営管理）を活用した営農の実践そのもの。現在の活動のさまざまな危険の生じる可能性から生産農家と農畜産物を守るリスク管理及び経営改善を強化して、さらに営農を発展させていく実践運動。「環境調和型農業*2」と一体的に展開。

*4 「農業経営体」

■主業経営体

- 65歳未満の世帯員（年60日以上自営業に従事）がいる農業所得が主の個人経営体。

■準主業経営体

- 65歳未満の世帯員（同上）がいる農外所得が主の個人経営体。

■副業経営体

- 65歳未満の世帯員（同上）がいない個人経営体。

*5 「GH（グリーンハーベスター）評価制度」

- 農場や生産組織が健全な農業を実践するための指標を提供して、「日本GAP規範の示す内容をどの程度達成しているかを評価し、改善計画を実践する制度。

*6 「スマート農業」

- ロボット技術や情報通信技術（ICT）など先端技術を活用して、省力化・精密化や高品質生産などの実現を目指す新たな農業。

*7 「Z-GIS」

- 圃場の情報を電子地図と関連づけ、営農にかかる各種情報を地図上で管理で

きる、JA全農が提供する営農管理システム。

- 従来、紙(白地図やノート)で管理していた圃場情報を電子化し、インターネット上に保管することで、複数名での相互閲覧・効率的な情報共有に利用でき、農家の圃場管理、JAの圃場台帳、農家訪問記録等さまざまな用途に使われている。

*8 「ザルビオ」

- JA全農とBASF(総合化学会社)が連携して提供する、人工衛星画像解析とAIを活用して、生育予測や病害リスク予測などの機能により最適な栽培・防除管理を支援するシステム。
- スマート農業に既に取り組んでいる生産農家からこれから取り組む生産農家まで、幅広い方の営農をサポートし、効率的な農業を実現する。

*9 「1日農業バイト」アプリ

- 農業の求職者を募集するスマートフォンアプリ(特定の目的を持って作成された、スマホ専用のソフトウェア)のことであり、農家(求人者)と仕事を探している人(求職者)を、アプリを通して数時間から1日単位でマッチングすることができるサービス。

*10 「JA共済労働災害補償制度」

- JA共済連と共栄火災が、農業経営の大規模化や法人化に伴って増大する農業法人等の事業者を取り巻く労働災害リスクに対応する、最大約59%の割引率で加入できる制度。

*11 「農業者賠償責任共済」

- 「生産」から「出荷・販売後」までに想定される農業者に関する幅広い賠償リスクから、保障プランを選択して契約を締結する共済制度。

*12 「JA全国大会」

- JAグループが3年に一度、全国各地のJA代表者が集まり、今後の共通意思と目指す基本方向などの組織協議案の決議と内外への表明を目的に開催する大会。
- 昭和27年に第1回大会が開催、今回の令和6年が30回目。



JA晴れの国岡山



JA 晴れの国岡山
農業振興計画

令和7年度
令和6年度
JA 晴れの国岡山農業協同組合